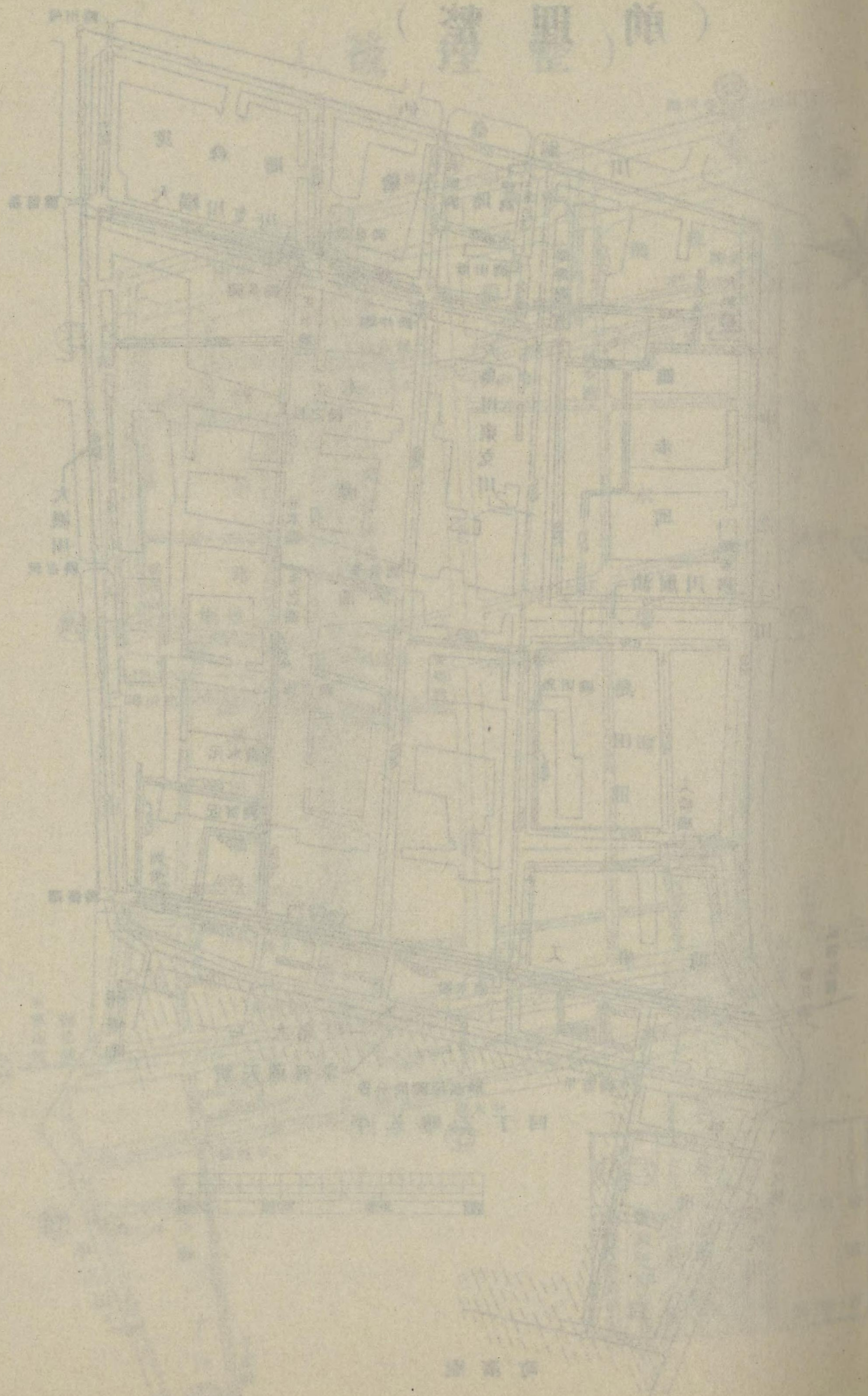


第六十圖

環形水塔設計圖

(第一層)



後前理整區地十六第

(前理整)



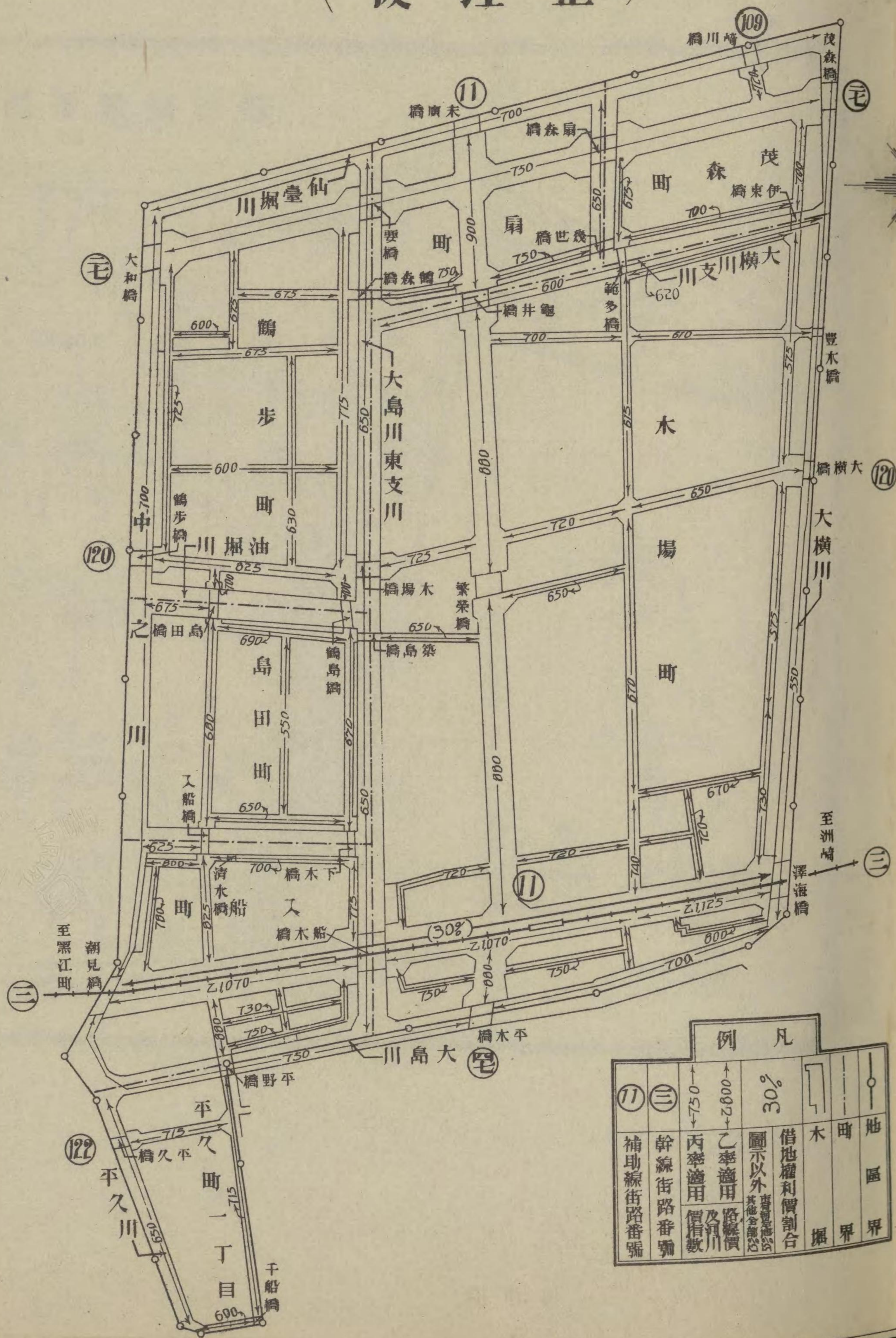
例凡

+	0.00	30%	借地權利割合
-	2.00	30%	圖示以外 借地權利割合
○	○		木
□	□		町
○	○		地
○	○		區
○	○		界

圖況概後前理整區地十六

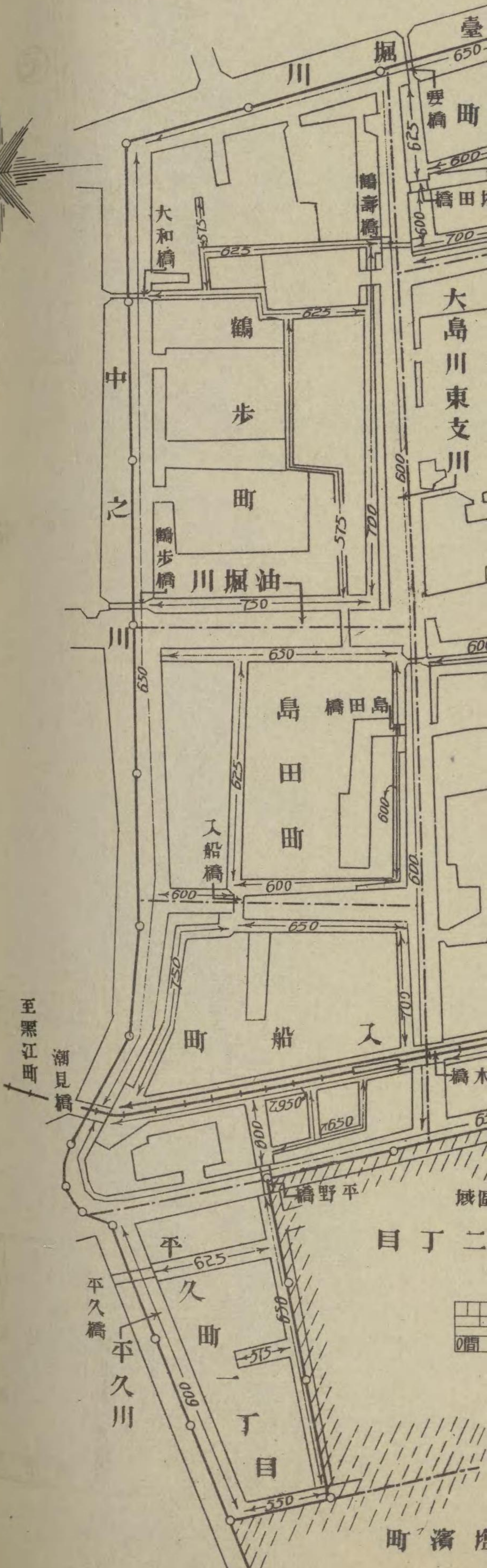
(後理整)

(前理整)



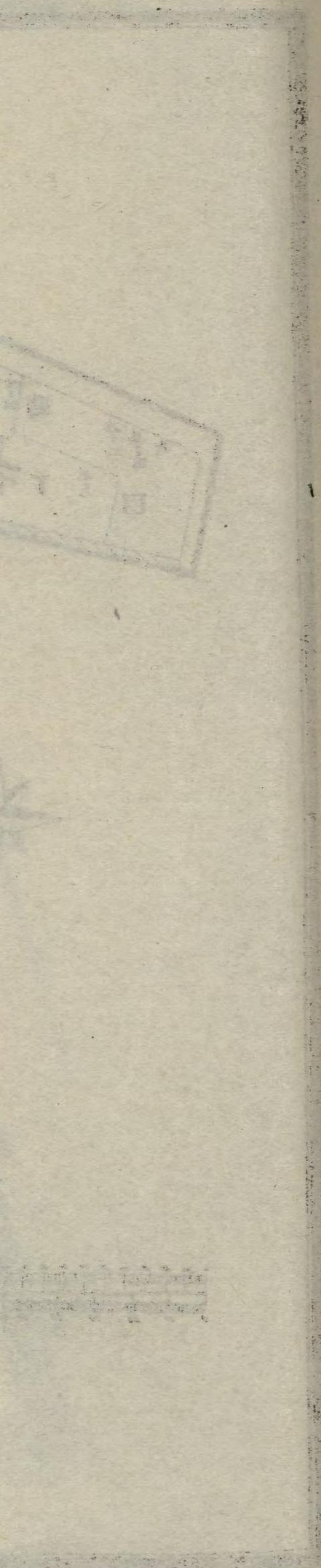
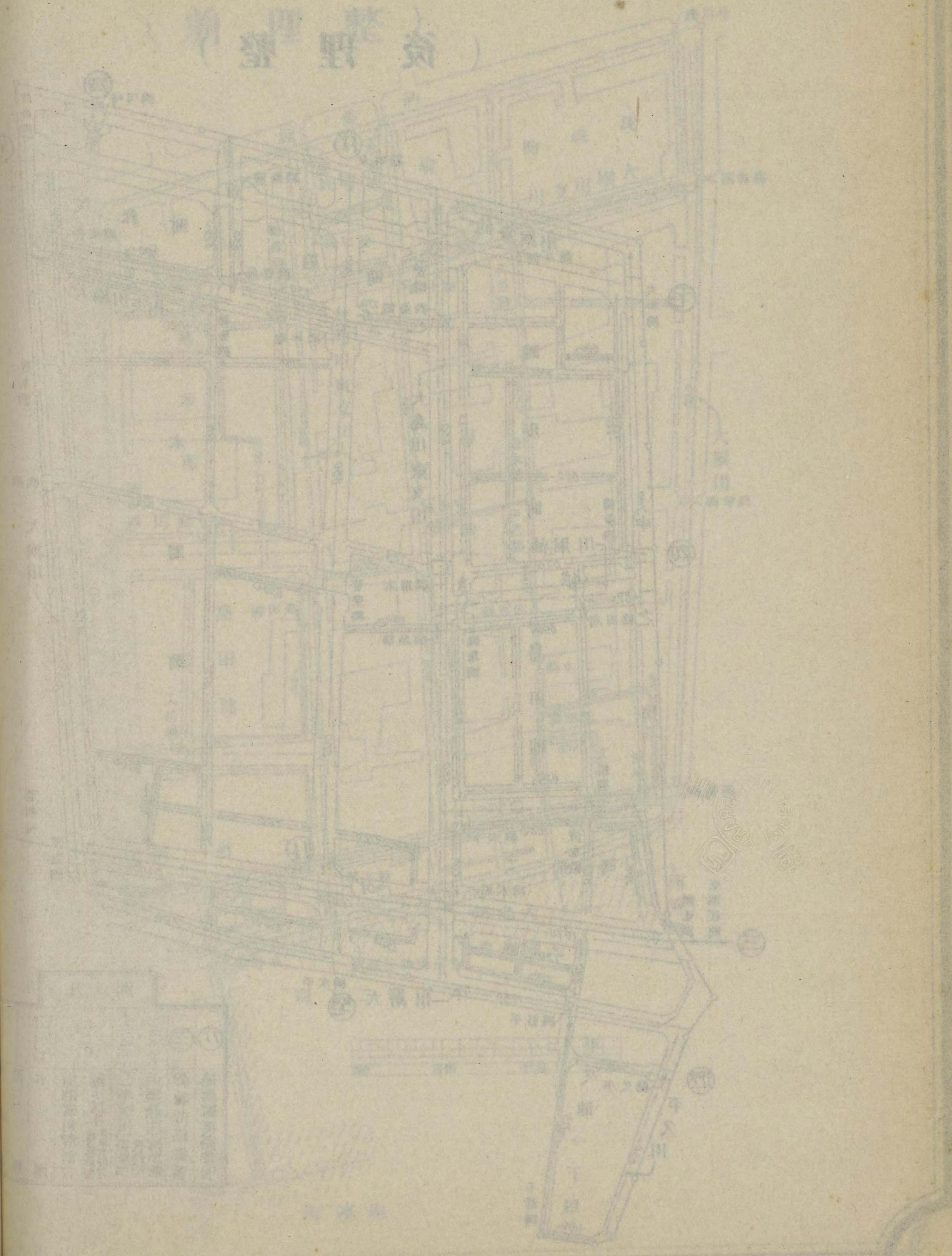
例凡

①	③	30%	借地權利割合	木	町	地
補助線街路番號	幹線街路番號	丙率適用 價額數	圖示以外 其額含額	借地權利割合	木	町
		乙率適用 及額川	圖示以外 其額含額	借地權利割合	木	町
		丙率適用 價額數	圖示以外 其額含額	借地權利割合	木	町

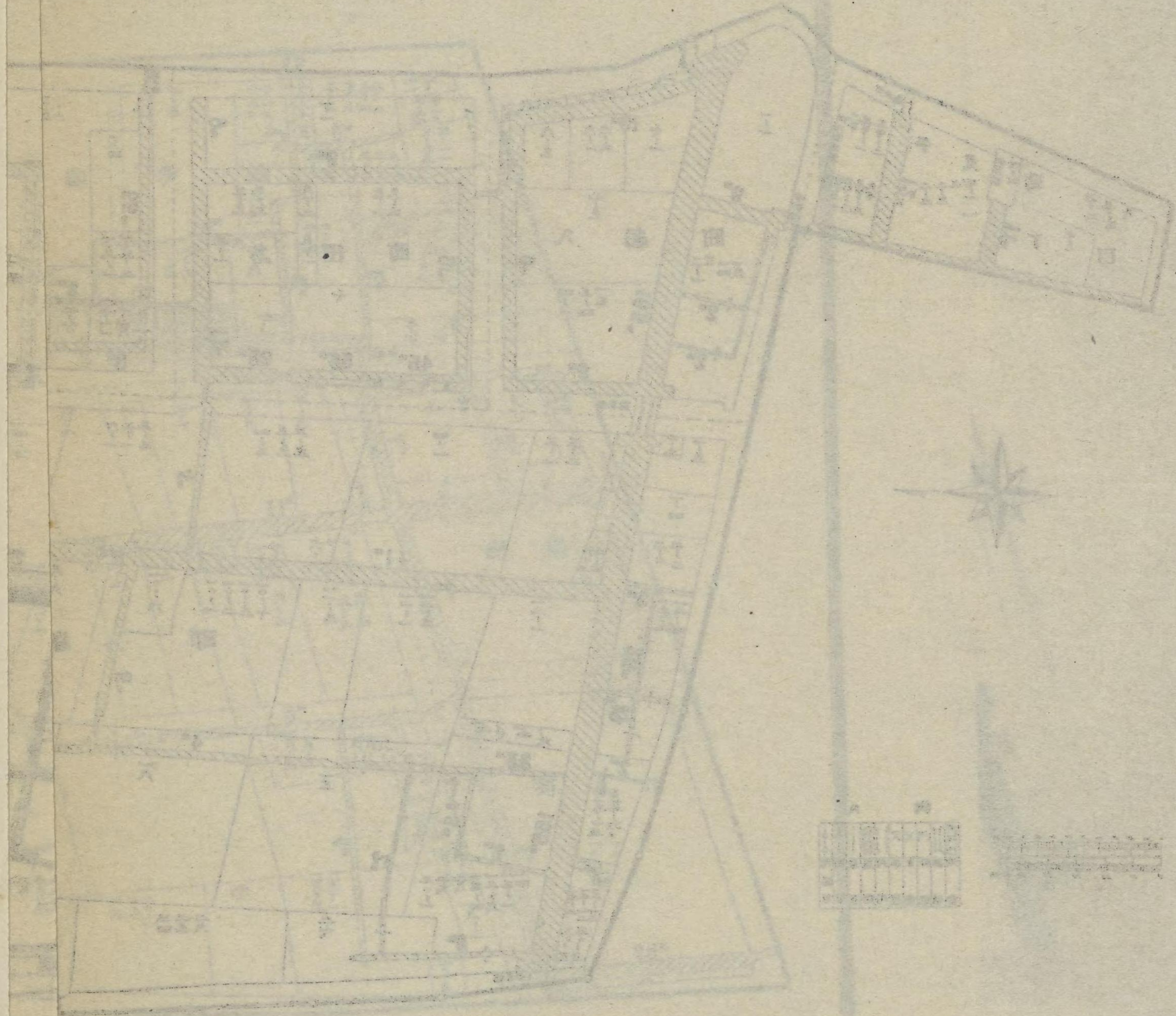


第 四 圖 地 圖

(資 野 野)

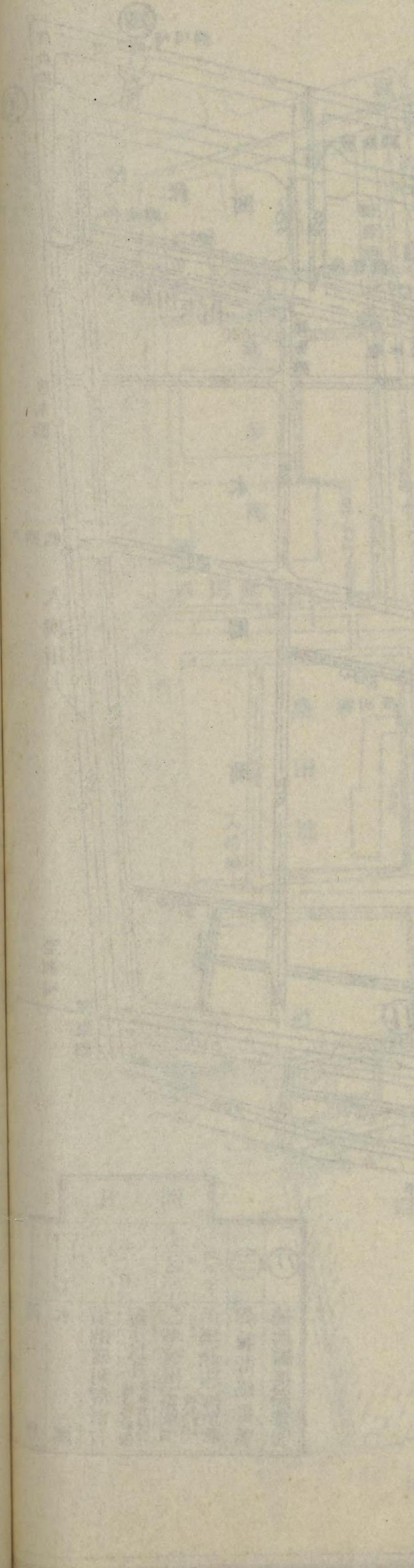


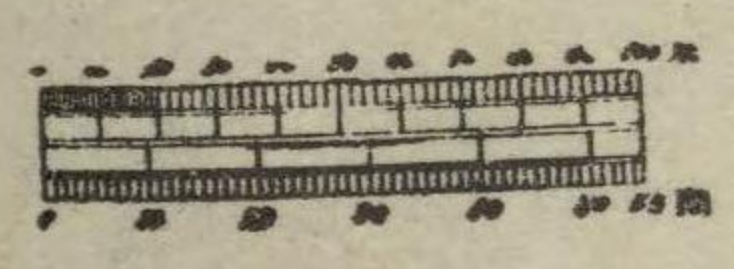
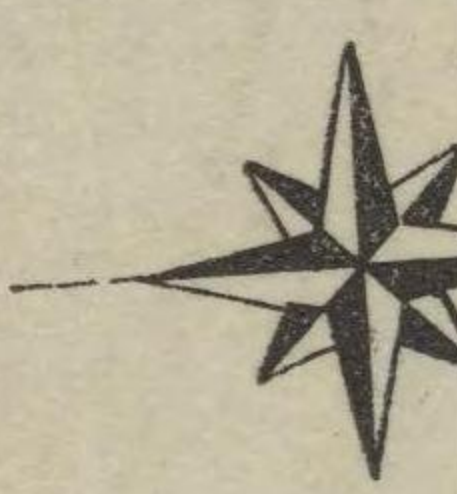
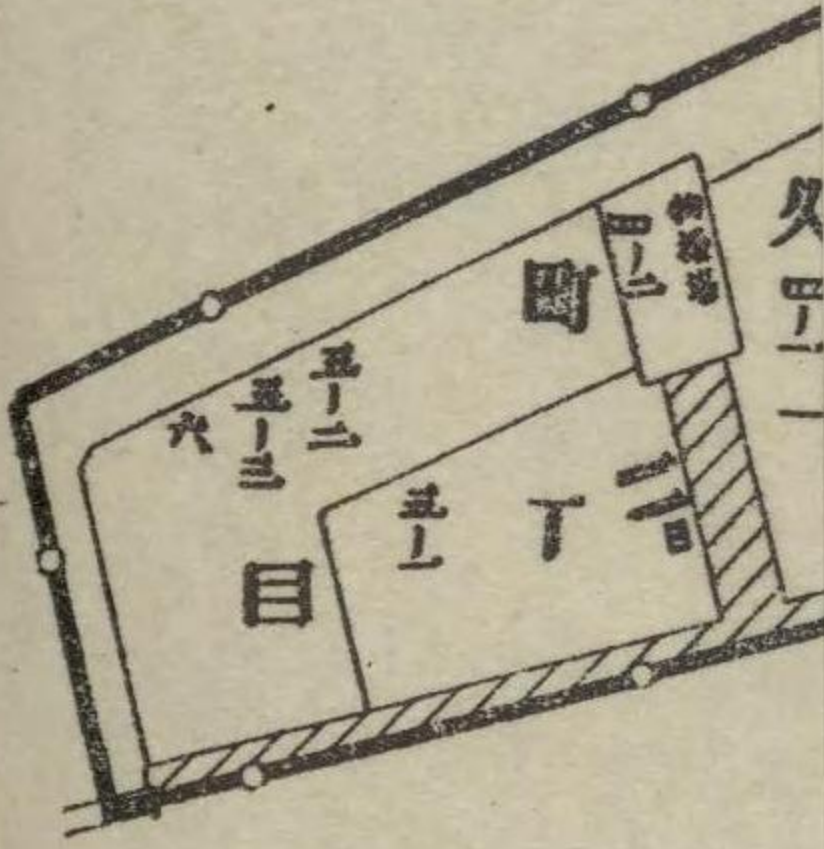
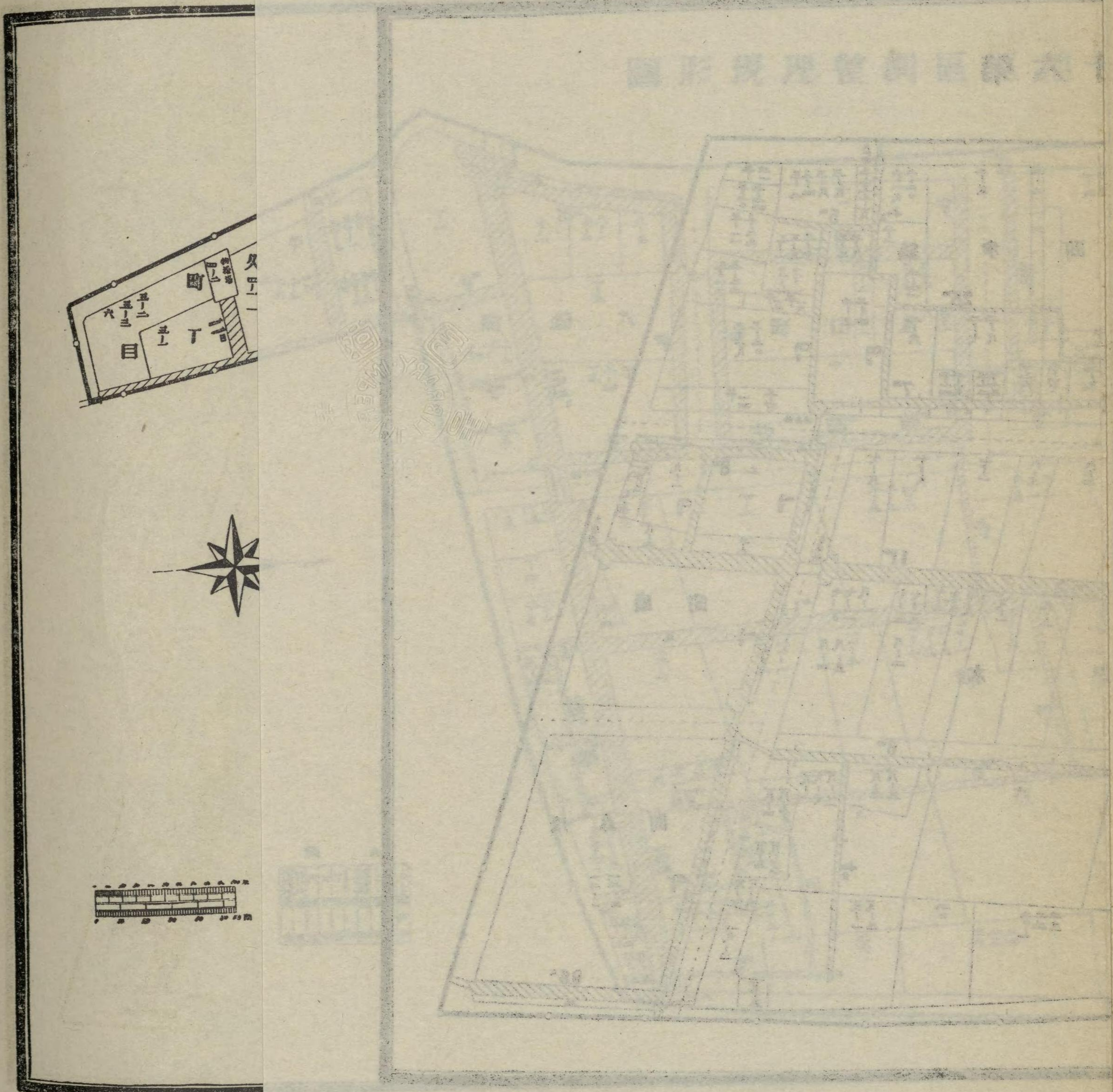
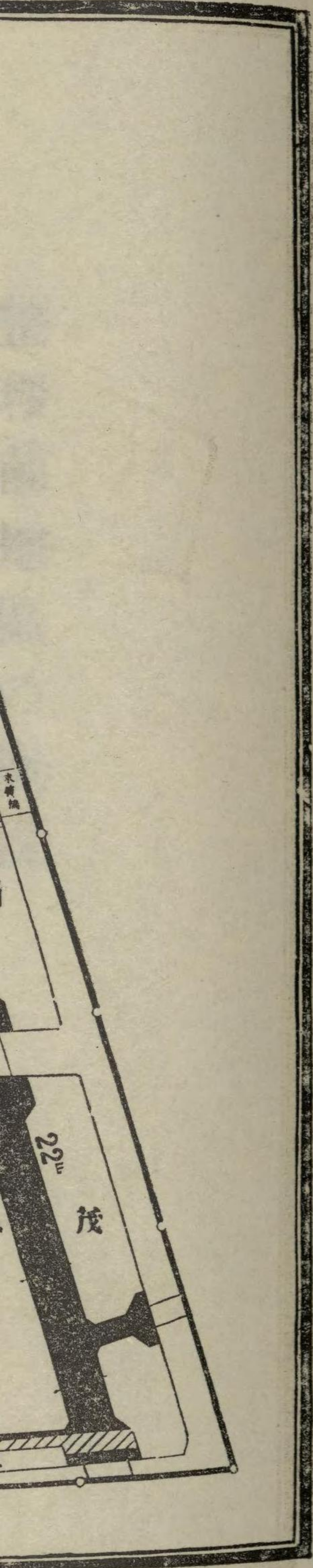
欽定四庫全書



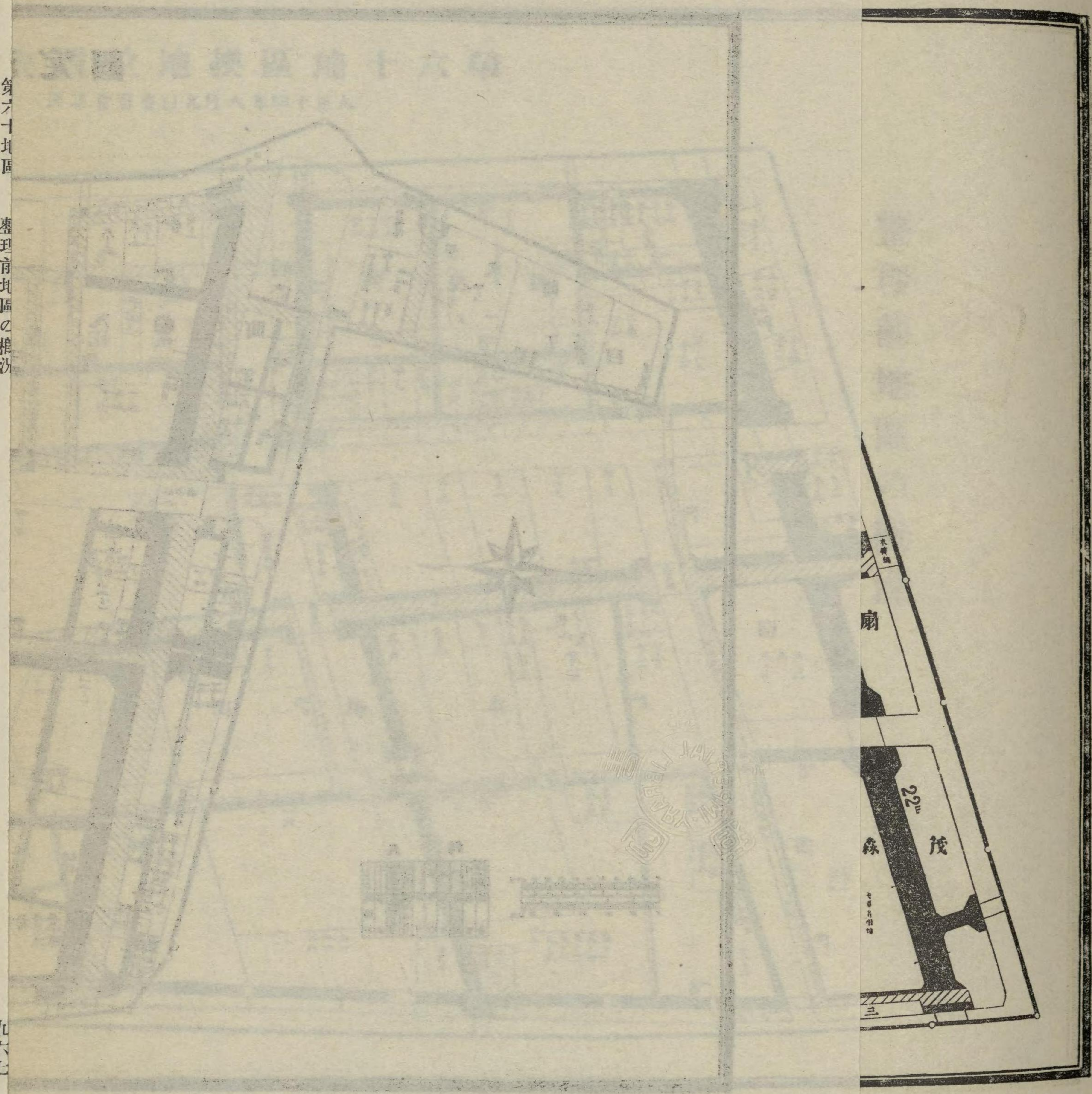
欽定四庫全書

欽定四庫全書

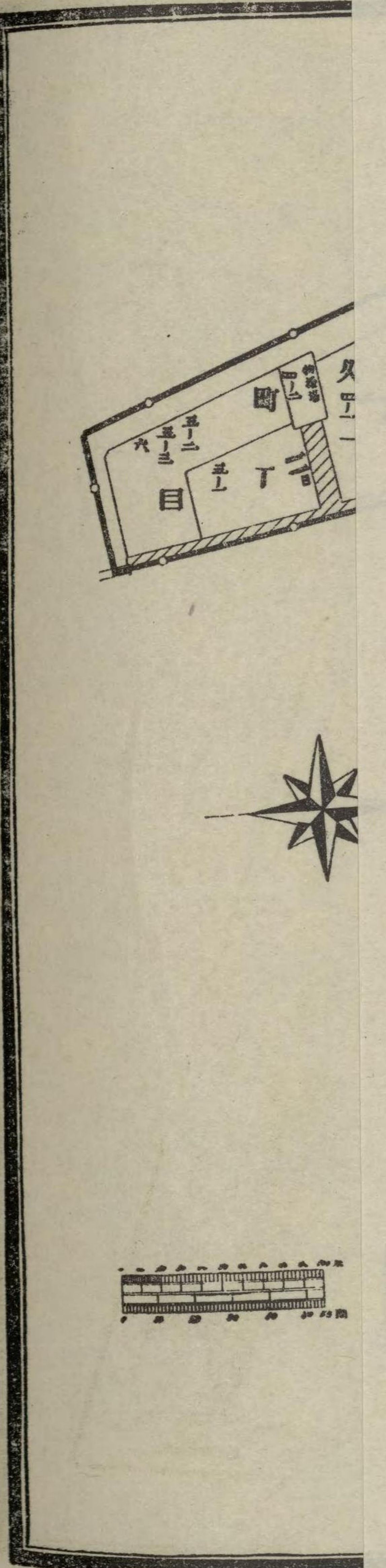




第九十地画
整理前地画の概況

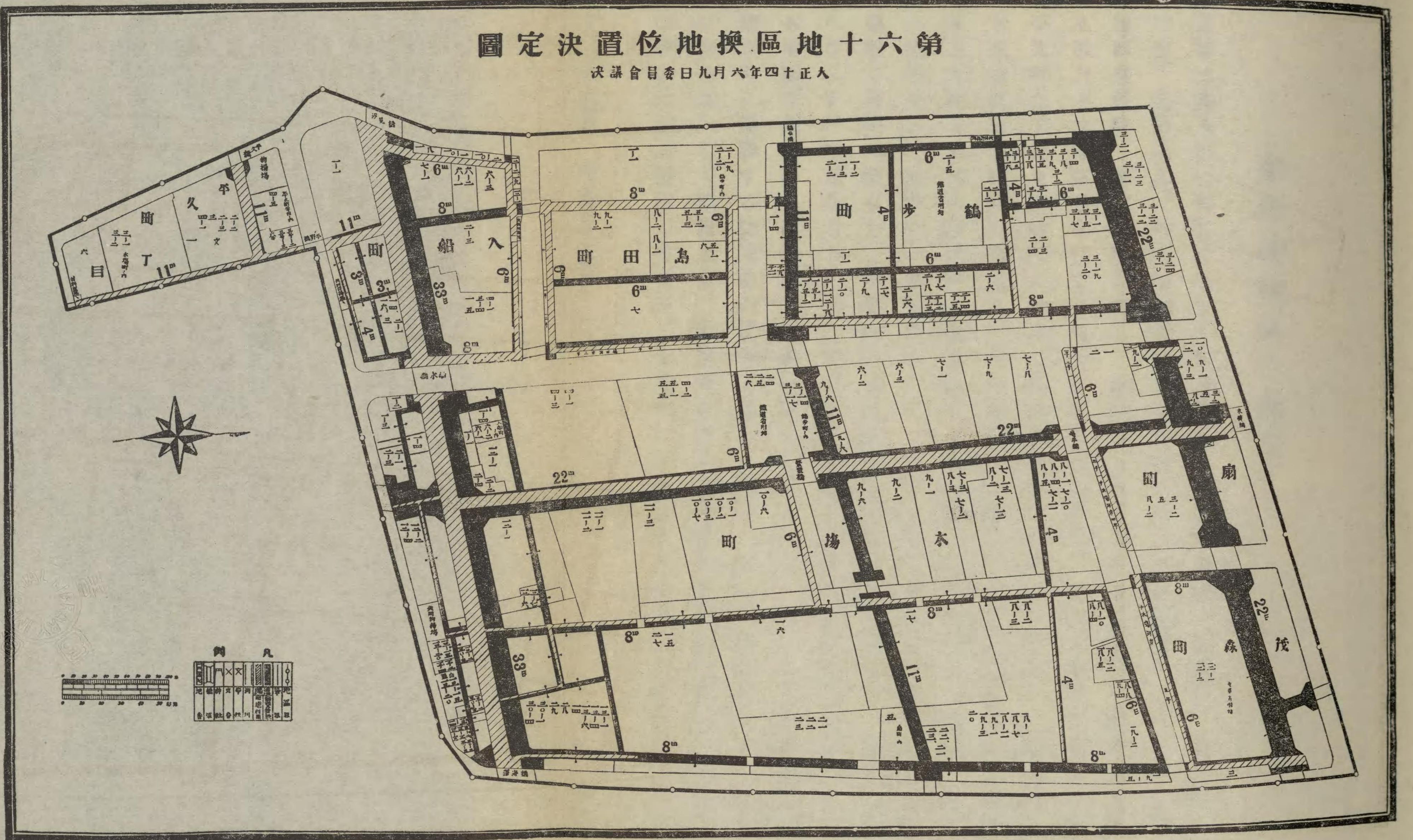


九六七



圖定決置位地換區地十六第

決議會員委日九月六年四十正大

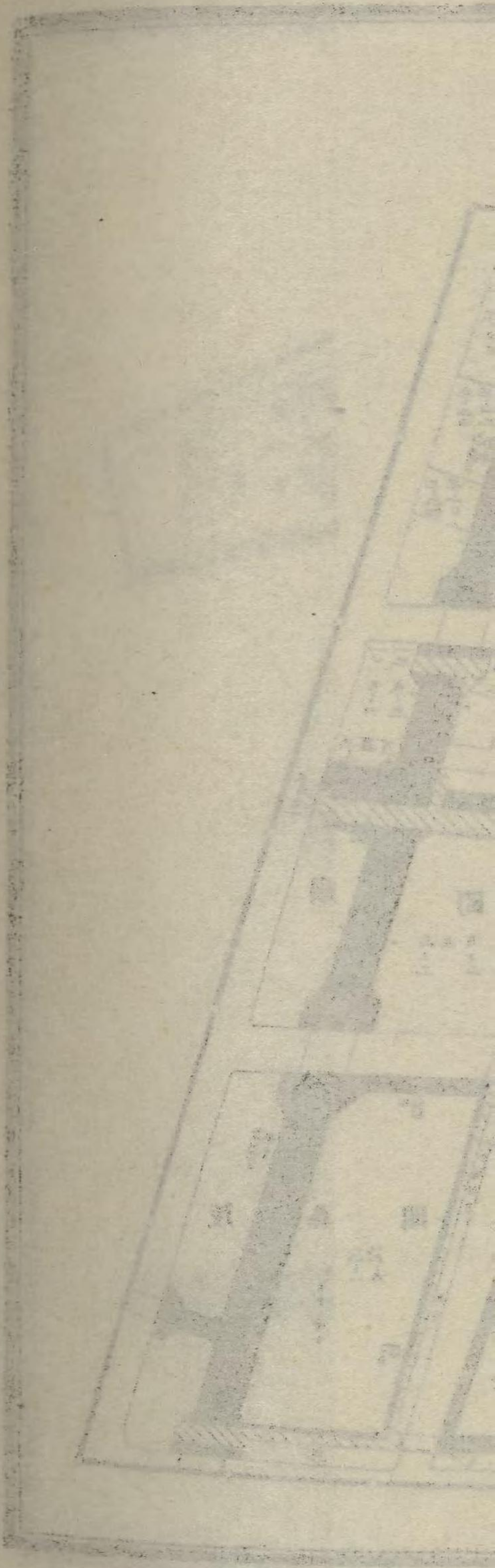


第六十號圖外旗立圖大

大正十四年八月八日發行



整理前地區の概況



整理前地區の概況

本地區は深川區の南部に位し、鶴歩町、扇町、茂森町、木場町、島田町、入船町、平久町一丁目、島田河岸、中木場河岸及辨天前河岸の一部を包括し、東は大横川を隔て、第六十一地區豊住町、西平井町に對し、西は中ノ川及平久川を界して第五十九地區大和町、數矢町及第六十二地區平富町二丁目及古石場町に接し、南は大島川を隔て、區劃整理地域外なる平久町二丁目及洲崎町に臨み、北は仙臺堀川を界して第五十六地區久永町、吉永町及第五十五地區東平野町に相對す、斯の如く周圍悉く河川を以て圍まれ且地區内亦河川、貯木堀多きを以て水陸の面積殆ど相半し、大小の橋梁三十餘あり、地形は稍菱形を爲し西南一部に突出せり、地勢は一般低濕にして、就中東部大横川に接する茂森町、木場町の一帯は地盤低く雨期の浸水と、強風時の海水浸入に據る被害尠からず、地區の總面積は十五萬七千八百二十一坪五合六勺にてして、之に所在する建物總棟數は千二百六十八棟なり、而して本地區は木材の集散地にし通稱木場として知られ、大小の木材問屋、挽物工場等多く、其の他是等に關聯する營業者の住宅大部分を占む、南部電車通に面する入船町及木場町の一部は商家櫛比して殷賑なり、木場町には日本防腐木材會社、東京電信倉庫、其の他同町及鶴歩町には東京鐵道局貯材所、茂森町には横須賀造船所深川艦材圍場及材料庫等あり。

甲 整地

第一章 土地區劃整理委員會

第一節 委員

第一 土地區劃整理委員及同補闕委員の選舉

第六十地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各十八人にして、其の選舉を大正十三年八月二十二日深川區役所に於て執行したるに、何れも左記の適當選したり。

一 土地區劃整理委員

土地所有者の部

小澤庄兵衛

黒田善太郎

藤倉電線株式會社

松本光太郎

武市木材株式會社

平田久藏

神山長三

加瀬忠次郎

舟橋米藏

借地權者の部

須田角藏

川端京五郎

若林源吉

石原友曉

八木寬

市村久治郎

金澤久藏

加藤二郎

福島幸太郎

二 同上補闕委員

土地所有者の部

森 正次郎

檜原貞八

内田半之助

鈴木半七

萩原兼松

木村登吉郎

鷺塚潤一郎

借地權者の部

澤本源藏

内藤徳藏

柳堀鐵之助

宮本久藏

關根忠七

土屋折之進

名塚忠五郎

中村勝之

石橋湛作

二 同上補闕委員

土地所有者の部

森 正次郎

榎原貞八

内田半之助

鈴木半七

萩原兼松

木村登吉郎

鷺塚潤一郎

借地権者の部

澤本源藏

内藤徳藏

柳堀鐵之助

宮本久藏

關根忠七

土屋折之進

名塚忠五郎

中村勝之

石橋湛作

第二 議長並副議長の選舉

大正十三年九月十八日深川區役所に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長松本光太郎議長並副議長の選舉を執行したるに、左記の通常選したり。

議長 松本光太郎

副議長

石原友曉

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至る迄左の如く異動したり。

一 借地権者選出委員福島幸太郎は地區の一部除斥の結果、昭和二年三月二十八日失格したるに因り、同年四月十二日同補闕委員澤本源藏補充せらる。

第二節 諮問及答申

一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は、大正十四年五月二十五日現在の土地臺帳面積に依らむとす。但し五月十五日限東京市役所に出願しなる者にして訂正を受けたるときは、其の面積に依るものとす。

右大正十四年四月十四日諮問 同日原案可決の上答申

二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年四月十日諮問 委員會三回 協議會四回開催 同十五年二月二十七日修正決議の上答申

議事要綱

地區内大島川以南に屬する部分は、提案當時地區除斥の陳情ありしが爲、大正十四年六月九日之を

除き大島川以北のみを修正決議し、翌十五年二月二十五日より大島川以南の部分に付て審議し、同月二十七日之を修正決議せり。

三 諮問第三號 整理前路線價指數並土地各筆坪當指數に關する件

大正十四年十月六日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同月二十六日修正決議の上答申

四 諮問第四號 整理後路線價指數に關する件 (茂森町、扇町、鶴歩町、木場町、島田町、入船町、平久町一丁目)

大正十四年十二月二十八日諮問 委員會二回 協議會一回開催

昭和三年十二月十九日原案可決の上答申

五 諮問第五號の一 換地位置變更に關する件 (扇町、中木場河岸、入船町、鶴歩町の各一部)

大正十五年二月二十七日諮問 同日原案可決の上答申

六 諮問第六號の一 換地面積決定に關する件 (扇町、中木場河岸、鶴歩町、入船町の各一部)

大正十五年二月二十七日諮問 委員會二回開催 同年五月二十一日修正決議の上答申

七 諮問第七號の一 整理後土地各筆坪當指數に關する件 (扇町、中木場河岸、鶴歩町、入船町の各一部)

大正十五年二月二十七日諮問 委員會三回 協議會二回開催

昭和三年十二月十九日原案可決の上答申

八 諮問第五號の二 換地位置變更に關する件 (木場町及島田町の各一部)

大正十五年五月二十一日諮問 同日原案可決の上答申

九 諮問第六號の二 換地面積決定に關する件 (木場町、入船町、島田町の各一部)

大正十五年五月二十一日諮問 委員會二回開催 同年七月二十日修正決議の上答申

一〇 諮問第七號の二 整理後土地各筆坪當指數に關する件 (木場町、入船町の各一部及島田町)

大正十五年五月二十一日諮問 委員會二回開催 昭和三年十二月十九日原案可決の上答申

一一 諮問第五號の三 換地位置變更に關する件 (木場町及鶴歩町の各一部)

昭和三年十二月十九日原案可決の上答申

八 諮問第五號の二 換地位置變更に關する件 (木場町及島田町の各一部)

大正十五年五月二十一日諮問 同日原案可決の上答申

九 諮問第六號の二 換地面積決定に關する件 (木場町、入船町、島田町の各一部)

大正十五年五月二十一日諮問 委員會二回開催 同年七月二十日修正決議の上答申

一〇 諮問第七號の二 整理後土地各筆坪當指數に關する件 (木場町、入船町の各一部及島田町)

大正十五年五月二十一日諮問 委員會二回開催 昭和三年十二月十九日原案可決の上答申

一一 諮問第五號の三 換地位置變更に關する件 (木場町及鶴歩町の各一部)

大正十五年七月二十日諮問 同日原案可決の上答申

一二 諮問第六號の三 換地面積決定に關する件 (木場町、茂森町、扇町の各一部)

大正十五年七月二十日諮問 委員會三回開催 同年九月二十八日修正決議の上答申

一三 諮問第七號の三 整理後土地各筆坪當指數に關する件 (木場町、茂森町、扇町の各一部)

大正十五年七月二十日諮問 委員會二回開催 昭和三年十二月十九日原案可決の上答申

一四 諮問第六號の四 換地面積決定に關する件 (木場町、平久町の各一部)

大正十五年九月二十八日諮問 同日修正決議の上答申

一五 諮問第五號の四 換地位置變更に關する件 (木場町の各一部)

昭和二年四月八日諮問 同日修正決議の上答申

一六 諮問第六號の五 換地面積決定に關する件 (平久町一丁目及辨天前河岸の各一部)

昭和二年四月八日諮問 同日修正決議の上答申

一七 諮問第八號 換地面積變更に關する件 (木場町の各一部)

昭和二年四月八日諮問 同日修正決議の上答申

一八 諮問第九號 整理前路線價指數並土地各筆坪當指數變更に關する件

昭和三年十月二十三日諮問 同日原案可決の上答申

一九 諮問第十號 換地面積變更に關する件 (各町の各一部)

昭和三年十月二十三日諮問 同日原案可決の上答申

二〇 諮問第十一號 換地處分に關する件

昭和三年十月二十三日諮問 委員會六回 協議會一回開催 同年十二月十九日原案可決の上答申

二一 諮問第十二號 補償金の配當に關する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合は、補償總指數を特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各權利の整理前指數に按分したる率に依らむとす、但し木場町五番ノ二に對する配當の額は整理前指數相當額と爲さむとす。

右昭和三年十月二十三日諮問 委員會三回開催 同年十二月十九日原案可決の上答申

二二 諮問第十三號 換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申ありたる後、土地又

は土地に關する權利の讓渡等ありたる場合の處分方の件

昭和三年十月二十三日諮問 委員會二回開催 同年十二月十九日原案可決の上答申

二三 諮問第十四號 換地處分變更に關する件

昭和四年十二月十四日諮問 同日原案可決の上答申

議事要綱

本案は鶴步町一番ノ五内、借地人に對する評定權利指數に誤謬算出ありし事を發見したる爲、之が變更案を諮問するに至りたるものにして、整理委員會は審議の結果原案の通可決せり。

第二章 整理前土地の狀況

本地區の總面積は十五萬七千八百二十一坪五合六勺にして、内宅地面積十一萬八千八百八坪一合六勺、

公共用地面積三萬九千十三坪四合なり、宅地及公共用地面積が地區總面積に對する割合は、宅地七割五分三厘、公共用地二割四分七厘なり、宅地内借地面積は四萬五十六坪八合五勺にして、之が宅地面積に對する割合は三割三分七厘なり。

本案は鶴歩町一番ノ五内、借地人に對する評定權利指數に誤謬算出ありし事を發見したる爲、之が變更案を諮問するに至りたるものにして、整理委員會は審議の結果原案の通可決せり。

第二章 整理前土地の狀況

本地區の總面積は十五萬七千八百二十一坪五合六勺にして、内宅地面積十一萬八千八百八坪一合六勺、

公共用地面積三萬九千十三坪四合なり、宅地及公共用地面積が地區總面積に對する割合は、宅地七割五分三厘、公共用地二割四分七厘なり、宅地内借地面積は四萬五十六坪八合五勺にして、之が宅地面積に對する割合は三割三分七厘なり。

本地區の區域は當初大島川以南に於て洲崎町、鹽濱町、平久町一丁目、同二丁目及辨天前河岸を包含せしが、地元民は町民大會を開き大島川以南を區劃整理施行區域より除外するの決議を爲し、大正十四年五月十九日連署を以て之が陳情を爲したり、其の理由に依れば大島川以南の區域は、埋立地にして街衢整然たるを以て、更に整理の必要なしと謂ふに在り、而して地元民は其の後尙除外の目的を達せむが爲、重ねて陳情する所ありしを以て、當局に於て調査の結果大島川以南の大部分面積約七萬二千百坪は、他の區劃整理施行區域に比較し街衢概ね整然たるのみならず、他の區域より隔離し區劃整理を廢止するも、街路其の他の施行上支障なく且經費を節減し得るを以て、昭和二年二月二十三日洲崎町、鹽濱町、平久町二丁目及辨天前河岸の一部を本地區より除外するに決し、同年三月二十八日内務省告示第二百九十四號を以て區域變更の件を告示せられ、同年四月七日東京市告示第一百十二號を以て地區變更の告示を爲したり。

本地區に於ける街路及河川分布の狀況を述べれば左の如し。

一 主要街路

汐見橋より地區の南部を東西に澤海橋に至る電車通は幅員九間、末廣橋より地區の中央部を東西に貫通し、木場町十二番ノ一地先に至る通稱三ツ目通は幅員六間なり。

二 其の他の街路

平久橋より平久町一丁目二番ノ二地先に至る街路は幅員六間、入船町一番ノ一地先より平久町一丁目と同二丁目との界に至る街路は幅員五間乃至六間、其の他は幅員狭小にして曲折多く、且木堀の爲

め行止りとなるもの多し。

三 河 川

大横川は地區の東端に在り幅員十四間、深度三尺七寸にして、本所、深川の兩區を縦斷する重要な運河なり、河心を地區界とす、大島川は其の大部分地區の南端に在り幅員十二間、深度三尺二寸にして大部分河心を地區界とし、一部分入船町と辨天前河岸との界を爲す、仙臺堀川は地區の北端に在りて幅員二十二間、深度四尺五寸にして、木材運搬上樞要なる位置を占む、河心を地區界とす、平久川及中ノ川は共に地區の西端を流れ、平久川は幅員十五間、深度三尺、中ノ川は幅員十六間乃至二十二間、深度三尺八寸にして何れも河心を地區界とす、大島川東支川は地區の稍中央を南北に貫通し幅員十間乃至十三間、深度二尺七寸にして、大島川と仙臺堀川とを連絡す、油堀川は鶴歩町と島田町との界を流れ幅員十四間、深度三尺七寸にして、中ノ川と大島川東支川とを連絡す、大横川支川は木場町と扇町及茂森町との界を流れ、幅員十間乃至十三間、深度二尺三寸にして、大横川と大島川東支川とを連絡す。

第三章 計畫の概要

第一節 街路及運河計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路及運河左の如し。

第一 幹線街路

第三號線は汐見橋より澤海橋に通ずる幅員三十三米の街路にして、在來電車通の北側に擴張せり、第二十七號線は新設大和橋より新設茂森橋に至る幅員二十二米の街路にして全部新設なり、第四十七號線は幹線第三號より南へ辨天前河岸に至る幅員二十二米の短き街路にして新設なり。

第二 補助線街路

第十一號線は末廣橋より幹線第三號に至る幅員二十二米の街路にして、在來街路を兩側に擴張せり、

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路及運河左の如し。

第一 幹線街路

第三號線は汐見橋より澤海橋に通ずる幅員三十三米の街路にして、在來電車通の北側に擴張せり、第二十七號線は新設大和橋より新設茂森橋に至る幅員二十二米の街路にして全部新設なり、第四十七號線は幹線第三號より南へ辨天前河岸に至る幅員二十二米の短き街路にして新設なり。

第二 補助線街路

第十一號線は末廣橋より幹線第三號に至る幅員二十二米の街路にして、在來街路を兩側に擴張せり、第九號線は新設崎川橋より幹線第二十七號に至る幅員十一米の街路にして新設なり、第二十號線は新設鶴歩橋より新設大横橋に至る幅員十一米の街路にして新設なり、第二百二十二號線は新設平久橋より東走して地區界に至る幅員十一米の街路にして、大體在來街路を利用せり。

第三 區劃整理街路

區劃整理街路は幅員三米、四米、六米、八米、十一米にして、土地の狀況に應じ、且幹線と補助線との連絡に考慮を拂ひ新設、擴張又は改修を爲せり。

第四 運河

大島川の改修は國施行に屬し幅員を擴張して四十米とし、河底を浚渫して深度一米八と爲すの計畫なりしが、昭和二年三月二十八日内務省告示第二百九十五號を以て平久町一丁目地先より以東の改修を削除せり。

以上述べたる幹線、補助線並區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	摘要
幹線	計	三三米	六六・五米	六、五〇・七四坪	
	二七	二三	六六・一八	四、四五〇・五九	
	四七	二三	四・二二	三、四・三三	
	計	二三	一一・四四	一一、〇一四・六六	

第六十地區 甲 整地

合	補助線	計	二 一九 二〇 二三	二 二 二 三	六七四・三 二九・一八 五七四・一八 八八・九 一、三六・空	四、五七・五〇 一五・七七 二、〇九・三〇 二九八・七〇 七、二四・三五
	區劃整理線	計	二 八 六 四 三	二 二 二 三	一六九・〇七 二、五九・五 二、三六・一四 六八・五 二九・四 五、八九・七	五、七六・一四 四、七三・五 八四・六 二六・五 二、七六・空
計					八、五八・七	二九、四七・七

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年四月十日土地區劃整理委員會に附議し、同十五年二月二十七日修正決議せしも、其の後數回に亘り一部換地位置變更案を提出し、昭和二年四月八日議了せり、換地面積決定に關する件は大正十五年二月二十七日より昭和二年四月八日に至る間數回に分ちて附議し、其の後二回一部面積變更案を提出し、其の都度各決議し、昭和三年十月二十三日議了せり。

換地設計に因る宅地面積十萬三千二百八十八坪一合一勺、公共用地面積五萬四千六百三坪四合五勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割五分四厘、公共用地三割四分六厘なり、宅地の内借地面積は三萬六千三百三十九坪二合八勺にして、其の宅地面積に對する割合は三割五分なり、而して宅地が公共用地となりたる面積一萬八千三百五十九坪七合九勺、公共用地が宅地となりたる

面積二千七百六十九坪七合四勺、其の差引潰地面積一萬五千五百九十坪五勺、減歩率一割三分一厘なり。整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。

積決定に關する件は大正十五年二月二十七日より昭和二年四月八日に至る間數回に分ちて附議し、其の後二回一部面積變更案を提出し、其の都度各決議し、昭和三年十月二十三日議了せり。

換地設計に因る宅地面積十萬三千二百十八坪一合一勺、公共用地面積五萬四千六百三坪四合五勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割五分四厘、公共用地三割四分六厘なり、宅地の内借地面積は三萬六千三百三十九坪二合八勺にして、其の宅地面積に對する割合は三割五分なり、而して宅地が公共用地となりたる面積一萬八千三百五十九坪七合九勺、公共用地が宅地となりたる

面積二千七百六十九坪七合四勺、其の差引潰地面積一萬五千五百九十坪五勺、減歩率一割三分一厘なり。

整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積

區分	總面積	宅地面積		公共用地面積		潰地面積	潰地整理面積に對する割合	潰地整理面積より宅地を控除したる補償面積
		内借地面積	總面積に對する割合	公共用地面積	公共用地に對する割合			
整理前	一七、八二・五 ^坪	一八、八〇・一六 ^坪	〇・七五	三、〇一三・四〇 ^坪	〇・一四七	一五、五〇・〇五 ^坪	〇・一三三	三、七九・二四 ^坪
整理後	一七、八二・五 ^坪	三、二九・二六	〇・三五〇	五、六三・四五	〇・三二六	一五、五〇・〇五 ^坪	〇・一三三	三、七九・二四 ^坪

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

區分	民有地	國有地	公有地	計
整理前	一〇七、二四・四 ^坪	六、八三・五 ^坪	四、八三・一三 ^坪	一一八、八〇・一六 ^坪
整理後	九五、五元・八〇	三、七三・四八	三、九四・八三	一〇三、二八・一一 ^坪

第六十地區 甲 整地

整理前公共用地面積内譯

七、三二・八二 ^坪	國有	街	河川運河	一四、三二・二四 ^坪
三、七九二・九八 ^坪	公有	路	公園	— ^坪
三、四八二・六二 ^坪	民有	小計	公共揚場	一七、〇六 ^坪
四、五〇六・四〇 ^坪			堤塘	— ^坪
			溝渠	七・七〇 ^坪
			合計	三九、〇三・四〇 ^坪

九七八

整理後公共用地面積内譯

二、〇五・四六 ^坪	幹線	街	河川運河	— ^坪
七、一三四・五二 ^坪	補助線	路	公園	— ^坪
二、七八七・九五 ^坪	區劃整理線	小計	公共揚場	七・五 ^坪
四、七二七・七六 ^坪			堤塘	— ^坪
二、四七九・一四 ^坪			溝渠	— ^坪
			合計	四、六〇三・〇五 ^坪

宅地が公共用地となりたる面積

六、七〇三・二二 ^坪	幹線	街	河川運河	三六〇・四四 ^坪
四、四六〇・一三 ^坪	補助線	路	公園	— ^坪
六、七八三・五二 ^坪	區劃整理線	小計	公共揚場	五二・四七 ^坪
四、四六六・八八 ^坪			堤塘	— ^坪
			溝渠	— ^坪
			合計	三三、五八九・九一 ^坪

公共用地が宅地となりたる面積

街	路	河川運河	公園	公共揚場	堤塘	溝渠	合計
---	---	------	----	------	----	----	----

六、七〇三・二二 ^坪	幹線	街
四、四六〇・一三 ^坪	補助線	
六、七八三・五二 ^坪	區劃	
二、四六六・八八 ^坪	小計	路
三、六〇四 ^坪	河川運河	
— ^坪	公園	
五、二四七 ^坪	公共揚場	
— ^坪	堤塘	
— ^坪	溝渠	
一、三、五九・九 ^坪	合計	

公共用地が宅地となりたる面積

一、三五〇・六六 ^坪	國有	街
三、六・七七 ^坪	公有	
八、四〇・二二 ^坪	民有	
二、五七七・五五 ^坪	小計	路
七、四・二三 ^坪	河川運河	
— ^坪	公園	
一、六〇六 ^坪	公共揚場	
— ^坪	堤塘	
— ^坪	溝渠	
二、七、七九・七 ^坪	合計	

備考 各公共用地の整理前面積に宅地が公共用地となりたる面積を加へ、「公共用地が宅地となりたる面積」を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

本地區の平均減歩率は一割三分一厘にして、換地設計上支障ありたるを以て潰地充當用として、宅地二千四百八十一坪九合五勺を買収せり、之が爲實際潰地面積は一萬三千八百八坪一合に減少し、其の減歩率一割一分三厘に低下したり、然るに猶ブロック間に於ける減歩率區々に互りたるを以て、之が調節の爲ブロック間に宅地の移出入を行ひ、其の設計を了したり。

第四章 土地の評價

第一節 整理前土地の評價

整理前路線價指數並各筆平均坪當指數に關する件は大正十四年十月六日土地區劃整理委員會に附議し、同月二十六日原案の通可決せり、其の後昭和三年十月二十三日一部變更案を提出し、即日可決したり。

本地區整理前の土地評價には路線價の外、地區を包圍する河川、其他全河川に河川價を附し、各奥行價格百分率中乙及丙の兩率を適用したり、其の路線價並河川價指數は土地の狀況に依り五百個乃至千個と評定したり、即ち木場町の電車通澤海橋寄りを最高千個、大横川を最低五百個としたり、其の路線價指數に基き算出し之れに地盤の高低による達觀を加へたる土地各筆平均坪當指數の最高は九百三十九

個、木場町三十番ノ四にして、最低は三百六十七個、木場町二十一番なり。
宅地全筆の總指數は土地の總指數六千五百八十三萬二千四百九十四個より、私道指數二十四萬二千八百二十個を控除したる六千五百五十八萬九千六百七十四個にして、之を宅地總面積十一萬八千八百八坪一合六勺にて除したる平均坪當指數は五百五十二個なり。
借地權利價割合は市有河岸地を五割五分、一般宅地を二割五分乃至三割と定めたり。

第二節 整理後土地の評価

整理後路線價指數に關する件は大正十四年十二月二十八日土地區劃整理委員會に附議し、昭和三年十月十九日原案の通可決せり、整理後各筆平均坪當指數に關する件は大正十五年二月二十七日、同年五月二十一日及同年七月二十日の三回に分ちて同委員會に附議し、昭和三年十二月十九日一括して原案の通可決したり。

本地區整理後の土地評價には整理前と同じく、路線價並河川價に對し乙及丙の兩率を適用したり、其の路線價並河川價指數は土地の整理狀況に依り五百五十個乃至千二百二十五個と評定したり、即ち幹線第三號澤海橋寄りを最高千二百二十五個、大横川を最低五百五十個としたり、而して路線價指數に基き算出し之に地盤の高低による達觀を加へたる土地各筆平均坪當指數の最高は千二百七個、木場町百九番にして、最低は四百三十七個、木場町七十五番なり。

換地全筆の總指數は六千五百五十萬四千五百二十一個にして、之を換地總面積十萬三千二百十八坪一合一勺にて除したる平均坪當指數は六百三十五個なり。

借地權利價割合は整理前同様市有河岸地を五割五分、一般宅地を二割五分乃至三割と定めたり。

以上記述せる整理前後に於ける最高、最低の路線價指數並各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

最低は四百三十七個、木場町七十五番なり。
換地全筆の總指數は六千五百五十萬四千五百二十一個にして、之を換地總面積十萬三千二百十八坪一合一勺にて除したる平均坪當指數は六百三十五個なり。

借地權利價割合は整理前同様市有河岸地を五割五分、一般宅地を二割五分乃至三割と定めたり。
以上記述せる整理前後に於ける最高、最低の路線價指數並各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	最高 1,000 <small>圓</small>	100.00 <small>圓</small>	1,125 <small>圓</small>	135.00 <small>圓</small>
最低	500	100.00	550	110.00
各筆坪當	最高 9元	17.80	1,107	131.20
最低	3元7	7.40	47	8.40
宅地總平均坪當	552	110.40	635	127.00

備考 指數單價は二十錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權	(内私道) 外 57,522,704 <small>個</small>	2,500,500 <small>圓</small>	56,500,424 <small>個</small>	2,700,022 <small>圓</small>
借地權	6,884,042	1,376,884 <small>圓</small>	7,004,107	1,500,822 <small>圓</small>
合計	(内私道) 外 64,406,746	3,877,384 <small>圓</small>	63,504,531	4,200,844 <small>圓</small>

- 備考
- 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。
 - 二 整理前の總指數潰地充當用買收地の指數を包含するものは六五、八三二、四九四個なり。
 - 三 整理前宅地總指數私道の指數を包含せざるものは六五、五八九、六七四個なり。

第五章 換地處分

第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件並換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は昭和三年十月二十三日土地區劃整理委員會に附議し、同年十二月十九日原案の通可決したるを以て、翌二十日內務大臣に本地區の土地區劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、昭和四年一月四日認可、同日內務省告示第二號を以て換地處分認可の告示ありたり、依て即日東京市告示第一號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領權利者は一月四日より一月十三日迄に東京市復興事業局第四出張所に申告書を提出すべき旨を告示せり、其の後深川區鶴歩町一番ノ五の借地權三件の算定に誤謬あるを發見したるを以て、之が變更案を同四年十二月十四日同委員會に提出し、同日原案の通可決したるを以て、同月十六日換地處分一部變更決定に關する認可申請を爲し、同月二十八日認可、同日內務省告示第三百八十四號を以て換地處分の一部變更の件認可の告示ありたり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前二百六十四筆、整理後二百九十筆、借地整理前四百十一件、整理後四百二十六件なり、土地權利者は所有權者整理前後共百十八人、借地權者整理前後共三百八人なり。土地各筆清算に際しては整理前要清算土地評定權利指數六千四百三十八萬六千七百四十六個を以て、換地の評定權利指數六千五百五十萬四千五百二十一個を除したる比率一〇一七三六〇三を、整理前の各筆權利指數に乗じて整理前の比例權利指數を算出せり。

内務省告示第三百八十四號を以て換地處分の一部變更の件認可の告示ありたり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前二百六十四筆、整理後二百九十筆、借地整理前四百一十一件、整理後四百二十六件なり、土地権利者は所有權者整理前後共百十八人、借地權者整理前後共三百八人なり。土地各筆清算に際しては整理前要素清算土地評定權利指數六千四百三十八萬六千七百四十六個を以て、換地の評定權利指數六千五百五十萬四千五百二十一個を除きたる比率一〇一七三六〇三を、整理前の各筆權利指數に乗じて整理前の比例權利指數を算出せり。

換地處分の結果左の如し。

一 清算を爲したるもの

換地説明書別	從前の土地		換地		計算上の清算		清算	
	面積	積地	面積	積地	徵收	交付	徵收	交付
甲	一六、五五七〇 ^坪	四、九四五三 ^坪	一〇、三二八二 ^坪	四、三四五九 ^坪	四四、三九〇〇 ^円	一八、一三三〇 ^円	三三、七五〇 ^円	三三、〇〇七 ^円
	五九、二二九 ^個	一一、八三九七 ^個	五九、一六九五 ^個	一一、八三九五 ^個		三五、六四九〇 ^円		三三、〇〇七 ^円
乙	一	三、五一一三	一	三、七九三七	二〇、九九四〇	二、八四八〇	一、四八九四〇	二、三九九〇
		六、三二五 ^坪		六、三九九三				
計	一六、五五七〇	四、〇〇八五	一〇、三二八二	三、三三三六	四四、三九〇〇	一八、〇一五〇	三三、一七四〇	三三、〇〇七〇
	一三、一〇〇九 ^坪	一三、一〇〇九 ^坪	一三、一〇〇九 ^坪	一三、一〇〇九 ^坪				

備考 一 換地説明書別欄、甲は所有權と所有權者にして借地權を有するもの、借地權との清算を、乙は借地權のみ
の清算を掲ぐ。

二 從前の所有地面積は臺帳面積にして、借地面積は申告面積なり。

三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。

二 特別處分を爲したるもの

一 換地を交付せず清算金を交付したるもの

第六十地區 甲 整地

權利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	指數	價格	摘要
勝本喜代松	深川區鶴步町	二ノ三	道路	所有權	二七・九〇 ^坪	一、七九 ^個	三三・八〇	私道敷
青山藤七	同	三ノ五	同	同	七・九六	五〇二	一〇〇・四〇	同
同 人	同	三ノ七	宅地	同	一〇・五	六四	二六・八〇	同
中村源一	同	三ノ六	道路	同	六・四〇	四三	八〇・六〇	同
同 人	同	三ノ六	同	同	二・四	一五四	三〇・八〇	同
近藤伊三郎	同	三ノ五	同	同	八・一九	五六	一〇三・二〇	同
森 正次郎	同	三ノ七	同	同	二・八九	一八二	三三・四〇	同
白井時次郎	同	三ノ〇	同	同	七・七	四九〇	九〇・〇〇	同
富樫とわ	同	三ノ七	同	同	三・二五	一五	三三・〇〇	同
齋 藤 茂	同	三ノ六	同	同	二二・八	七、四九	一、四一・八〇	同
範多龍太郎	同	一八ノ七	同	同	三三・五〇	一、九三〇	三六・〇〇	同
同 人	同	一九ノ三	同	同	二二・二〇	六、四二	一、二二・二〇	同
合 計					三四五・七七	二〇、五九	四、一三・〇〇	

二 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

東京市所有地道路四十九筆四千二十二坪三合三勺、河川敷二筆三百一十一坪、河岸地一筆百十七坪四合九勺、水面埋立地一筆百七十八坪六勺、内務省所有地十七筆千五百四十五坪七合五勺、合計六千七百七十四坪六合三勺。

潰地充當用買収地一筆二千三百七十七坪八勺。

三 所有權以外の權利又は處分の制限の指定を爲したるもの

二 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの
 東京市所有地道路四十九筆四千二十二坪三合三勺、河川敷二筆三百一十一坪、河岸地一筆百十七坪四合九勺、水面埋立地一筆百七十八坪六勺、内務省所有地十七筆千五百四十五坪七合五勺、合計六千七百七十四坪六合三勺。

潰地充當用買収地一筆二千三百七十七坪八勺。

三 所有権以外の権利又は處分の制限の指定を爲したるもの

- 一 既登記の所有権以外の権利の指定を爲したるもの地上権九件、地上権假登記二件、抵當權百六十三件、地上権を目的とする抵當權一件あり。
 - 二 處分の制限の指定を爲したるもの所有権假登記二件あり。
 - 三 未登記の所有権以外の権利の指定を爲したるもの賃借權四百五十四件あり。
- 備考 右の外係争中の賃借權一件、借地法第六條該當地三十一件、同法第九條該當地十一件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和四年一月四日内務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は三十六萬二千五百七十六圓二十錢にして人員二百二十二名なり、又土地補償金は同月二十二日補償審査會に於て十一萬二千八百七十八圓二十錢人員四百一十一人と決定せられ同月二十三日其の通知を受けたり、依て同年二月十四日左記の通補償金を以て徴收清算に充當處分を爲したり。

徴收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徴收清算金		充當後交付補償金	
金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員
三六、五七六・二〇 ^円	二三三	一一、八七六・二〇 ^円	四二二	四八、三〇五・四〇 ^円	二三三	三四、一七〇・八〇 ^円	一五二	六四、五七二・八〇 ^円	一三七

福井某外二名に對する換地處分變更の件昭和四年十二月二十八日内務大臣の認可ありたる結果徴收清算金總額並充當後に於ける徴收清算金左記の通變更せり。

第六十地區 甲 整地

徵收清算金總額		補償金充當額		充當後徵收清算金	
金	人員	金	人員	金	人員
三六、四七〇・六〇	二二	四八、三〇五・五〇	二二	三四、一六五・一〇	一九

第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、昭和四年二月十四日充當處分を爲したる後直に之が送達に著手し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

第三 清算金の徵收

本地區に於ける徵收清算金總額は三十六萬二千四百七十圓六十錢なりしが、内四萬八千三百五圓四十錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徵收すべき清算金は差引三十一萬四千百六十五圓二十錢にして人員百九十三人なり。

右徵收人員百九十三人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの八十四人なるも、内鐵道省分を除き八十三人に對し、分納申請期限を昭和四年二月二十八日とし同月十四日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を途付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの三十二人にして資格者總數に對し僅に三割八分に過ぎざりしを以て、同年三月六日未提出者五十一人に對し更に同月十三日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に申請したるもの十四人ありて結局申請者合計四十六人となり資格者總數に對し約五割六分となれり。

依て右申請書を審査の上、昭和四年四月八日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送

付せり。

本地區の清算金徵收事務は深川區役所に於て取扱ふものにして、昭和四年四月より之が徵收を開始せ

除き八十三人に對し、分納申請期限を昭和四年二月二十八日とし同月十四日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を途付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの三十二人にして資格者總數に對し僅に三割八分に過ぎざりしを以て、同年三月六日未提出者五十一人に對し更に同月十三日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に申請したるもの十四人ありて結局申請者合計四十六人となり資格者總數に對し約五割六分となれり。

依て右申請書を審査の上、昭和四年四月八日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送

付せり。

本地區の清算金徵收事務は深川區役所に於て取扱ふものにして、昭和四年四月より之が徵收を開始せり。

第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は三十六萬二千四百七十圓六十錢にして昭和四年二月二十五日之が支拂を開始し、同年九月十七日迄に全部其の支拂を了したり。

第六章 土地補償金

第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割三分一厘二二〇なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前の權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり。

次で前記配當割合に基き左表其の一に依り計算したる補償總指數を整理前各權利に配當して原案を作成の上、昭和四年一月十六日補償審査會に提出し、同月二十二日原案の通決定せられ同月二十三日其の旨通知を受けたり。

而して要交付補償金總額は十一萬二千八百七十八圓二十錢にして人員四百一十一人なり。

補償金計算調書

(其の一)

第六十地區 甲 整地

九八七

摘要		員數
整理前宅地總面積	一二八、八〇八坪一六	
整理前宅地總面積	一〇三、二二八坪一一	
潰地總面積	一五、五九〇坪〇五	
整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合	〇・一三一二二〇	
整理前宅地の一割に相當する面積	一一、八八〇坪八一	
補償總面積	三、七〇九坪二四	
整理前平均宅地總面積	六五、五八九、六七四個	
同上平均宅地總面積	五五二個	
整理前宅地總面積	〇圓二〇	
補償總額	一二〇圓四〇	
補償金總額	一一、〇四七、五〇〇個	
補償金總額	四〇九、五〇〇圓〇〇	

(其の二)

摘要		員數
特別都市計畫法施行令	二、四八一坪九五	
第二十九條該當中指數	一、四四五、七四八個	
相當額配當のもの	一、四四五、七四八個	
差引整理前宅地總面積	二八九、一四九圓六〇	
差引整理前宅地總面積	六四、一四三、九二六個	
差引整理前宅地總面積	六〇一、七五二個	
補償金配當率(整理前指數千個當)	九三個八一、二六五	

特別都市計畫法施行令
第二十九條該當中指數

面積
整理前指數

八、四九二坪五一
三、九八一、五五三個

特別都市計畫法施行令	面積	整理前指積	二、四八一坪九五
第二十九條該當中指數	補償指積	補償指積	一、四四五、七四八個
相當額配當のもの	補償指積	補償指積	一、四四五、七四八個
差引整理前宅	總指數	總指數	二八九、一四九圓六〇
差引整理前宅	總指數	總指數	六四、一四三、九二六個
差引整理前宅	總指數	總指數	六〇一、七五二個
補償金配當率(整理前指數千個當)	總指數	總指數	九三個八一二六五

特別都市計畫法施行令	面積	整理前指積	八、四九二坪五一
第二十九條該當中指數	補償指積	補償指積	三、九八一、五五三個
率に依り配當のもの	補償指積	補償指積	三七、三六一個
差引要交付	補償金額	補償金額	七、四七二圓二〇
差引要交付	補償金額	補償金額	一一二、八七八圓二〇

第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は左記調査表の如く、市負擔額は十三萬九千五百五十圓八十錢となりしが、幹線街路敷充當用として國に於て買収したる土地の評定價格が國負擔額に對し二萬六千二百七十二圓六十錢超過となりたるを以て之を市負擔額に充當し立替を受けたる結果差引十一萬二千八百七十八圓二十錢(人員四百一十一人)市に於て負擔することとなりたり。

國市負擔區分調査表 (其の一)

補償	面積		國負擔	面積		市負擔	備考	
	金額	指數		金額	指數		整理前總面積	平均坪
三、七〇九、二四 ^坪	四〇九、五〇〇・〇〇 ^円	二、四七、五〇〇 ^個	二、四四五、五 ^元	一、三三八、八二五 ^個	一、二六三、八五 ^坪	一四一、七三三・〇〇 ^円	二八、八〇八・二六 ^坪	五、四六、三〇一 ^個
	二、六七、七三三・〇〇 ^円	一、三三八、八二五 ^個		七〇八、六八五 ^個		六五、五九九、六七四 ^個		五、四六、三〇一 ^個

(其の二)

(△印は減を示す)

負擔區別	面積	補償		施行令第二十九條該當地		差引交付	
		金額	指數	金額	指數	金額	指數
國負擔	幹線	二,四五五・三 ^印	一,三三八・八五 ^印	四,八八六・〇〇 ^印	一,四四五・七四 ^印	二,九四〇・二七 ^印	一,三三三・六三 ^印
市負擔	補助線の 内電氣事 業用地	一,二八三・六五	七〇八・六二	二,二九三	—	二,九三二	六九五・七四
總計	三,七三九・三四	四〇九,四〇〇・〇〇	二,四〇七,五〇〇	七,四七二・二〇	二,八九一,四九六・〇	二,九六六・二八〇	二,二二八,八六二・三〇

第三 各權利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金は總額十一萬二千八百七十八圓二十錢なりしが、内四萬八千三百五圓四十錢を徵收清算金に充當したる結果、直接各權利者に交付すべき補償金は六萬四千五百七十二圓八十錢(人員二百三十七人)なり。

第四 補償金の交付

本地區に於ける補償金總額十一萬二千八百七十八圓二十錢中、徵收清算金に充當したる金額四萬八千三百五圓四十錢は市會計規程に基き振替手續に依り昭和四年二月十四日支出し、直接交付額六萬四千五

第三 各権利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金は總額十一萬二千八百七十八圓二十錢なりしが、内四萬八千三百五圓四十錢を徴收清算金に充當したる結果、直接各権利者に交付すべき補償金は六萬四千五百七十二圓八十錢(人員二百三十七人)なり。

第四 補償金の交付

本地區に於ける補償金總額十一萬二千八百七十八圓二十錢中、徴收清算金に充當したる金額四萬八千三百五圓四十錢は市會計規程に基き振替手續に依り昭和四年二月十四日支出し、直接交付額六萬四千五百七十二圓八十錢は同月二十五日之が支拂を開始し、同五年九月一日迄に全部其の支拂を了したり。

第七章 登記及地價配賦

第一節 登記

第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更二十二件、土地名義人表示更正及變更七件、土地分合筆四十六件なり。

第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前百八十九筆、整理後二百七十三筆にして、建物囑託件數は要登記のもの二百七十件、現存を認め難きもの九件なり、囑託書を東京區裁判所林町出張所に提出したるは昭和四年一月二十八日にして、登記の完了は同年二月二十五日なり、而して登記の停止期間は換地處分告示の日、即ち昭和四年一月四日より約二箇月に亘れり。

第二節 地價配賦

第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を兩國橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

一 土地區劃整理施行申告

昭和二年四月二十五日

第六十地區 甲 整地

- 一 工事著手届
- 一 工事完了届

同
昭和四年一月二十三日

第二 地價配賦

地價配賦案は昭和四年一月十九日之が作成を了し、同月二十八日兩國橋稅務署長に提出し、同年三月十五日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は三十四萬四百五十五圓二十二錢にして、整理に依り減少したる有租地面積に對する控除地價額は四萬五千二百六十八圓八十八錢なり、之を前述の地價總額より控除したる二十九萬五千八百八十六圓三十四錢は、即ち整理後有租地に對し配賦せらるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は四圓七十一錢七八一四なり。

地價配賦算定に關する數字を示せば左の如し。

一 整理前後有租地面積

整理前面積	整理後面積	差引減歩面積
一三、九七九・三五 ^坪	九七、九五四・八三 ^坪	一五、〇四四・五三 ^坪

二 整理前有租地坪當平均地價

租地前面積有	同上總地價	坪當平均地價
一三、九七九・三五 ^坪	三四〇、四五五・三三 ^円	三・〇三三 ^円

三 控除せらるべき地價

有租地差引減歩面積	坪當平均地價	控除地價
一五、〇四四・五三 ^坪	三・〇三三 ^円	四五、二八八・八八 ^円

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租地總指數	配賦地價額	指數千個當配賦地價額
六、五八、四五四 ^千	二九五、一八六・三三 ^円	四・七二八四 ^円

次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の區分に從ひ地目別に掲記すれば左の如し。

三 控除せらるべき地價		
有租地差引 減歩面積	坪當平均地價	控除地價
一五、〇四・五一 ^坪	三・〇三 ^坪	四五、二八・八八 ^坪

四 整理後評定指數千個當配賦地價額		
整理後有租 地總指數	配賦地價額	指數千個當 配賦地價額
六、五八、四五 ^坪	二九五、一八・三 ^坪	四・七二八四 ^坪

次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の區分に従ひ地目別に掲記すれば左の如し。

整理前後土地面積及筆數調

區分	地目	従前の土地		整理後の土地		面積差引		筆數差引	
		臺帳面積	筆數	實測面積	筆數	増	減	増	減
有租地	宅地	一一〇、四四・〇六 ^坪	一六二	九七、九五・八三 ^坪	一七六	—	一三、四八・二三 ^坪	—	二五
	道路	九一・四二	三三	三三・三九	—	—	八七・〇七	—	—
民有免租地	道路	四、〇三・三三	五〇	—	—	—	四、〇三・三三	—	—
	河岸地	一、六七・八五	六	一、二九・八九	六	—	三〇・六六	—	—
	河川敷	三三・〇〇	二	—	—	—	三三・〇〇	—	—
	公立學校敷地	一五・〇〇	一	一五・五九	一	—	—	—	—
	計	六、一八・一八	五九	一、四七・四三	七	—	四、七四・二九	—	—
	計	—	—	—	—	—	—	—	—
府有免租地	官有地	八・八八	二	八・〇九	一	—	〇・七九	—	—
	計	—	—	—	—	—	—	—	—
國有免租地	官有地	四、六三・〇八	二	二、二七・五四	二	—	二、四四・五四	—	—
	鐵道用地	二、一〇・九九	一	一、五七・八五	三	—	五九三・一四	—	—
	道路	一、五四・七五	一七	—	—	—	一、五四・七五	—	—
	計	八、三三・八二	二〇	三、七五・三九	五	—	四、五三・四三	—	—
道路	七、三三・八一	—	二九、九四・七六	—	—	—	—	—	

第六十地區 甲 整地

乙 建物其他の工作物移轉

第六十地區 甲 整地

合 計	公 共 用 地		
	運河 河川	溝 渠	共 同 物 揚 場
一五、一四・三	二二、〇五・元	七・七〇	二九、二六・九〇
二四			
一五、八三・五	一四、五九・一四	六・五五	四、六〇三・四
二〇			
二五、三七・八	二、五二・五	六・五五	三、三四・三
三、六四・五		七・七〇	七・七〇
二七			
九			

九九四

乙 建物其の他の工作物移轉

第一章 整理前の建物

第一節 建物狀況

本地區整理前の宅地總面積は十一萬八千八百八坪一合六勺にして、之に所在する建物の總棟數は千二百六十八棟此の延坪數三萬二千七百七十三坪七勺なり、而して建物一棟當り宅地面積は九十三坪六合八勺、同建物延坪數は二十五坪三合七勺なり。

前記總棟數の内移轉を要するもの千四十八棟にして、爾餘の二百二十棟は換地の關係に依り其の儘据置き得る不要移轉建物なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	建物總數		内		譯	
	棟數	延坪數	要移轉棟數	要移轉延坪數	不要移轉棟數	不要移轉延坪數
木造 平家 建物	一、二五七	三、五八・三坪	一、〇四二	二五、五七・六坪	二五	六、〇〇・三坪
煉瓦造 平家 建物	七	二九・五坪	四	一六・五坪	三	一〇三・五〇
同 二階 建物	一	一〇・〇	一	一五・〇〇	一	一〇・〇〇
同 三階 建物	一	一五・〇〇	一	一五・〇〇	一	一〇・〇〇
鐵骨造 平家 建物	一	七二・五〇	一	七二・五〇	一	一〇・〇〇
鐵筋コンクリート造 二階 建物	一	五七・五〇	一	七二・五〇	一	五七・五〇
計	一、二六六	三、一七五・〇七	一、〇四八	二五、五〇・七三	三〇	六、六七・三四
建物總數に對する百分比	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	八二・六五	七九・二六	二七・三五	一〇・七四

第六十地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第六十地區 乙 建物其の他の工作物移轉

九九六

要移轉建物の用途を大別すれば、住宅三百二十五棟の三割一分を最高とし、商店二百八十六棟の二割七分之に次ぎ、以下倉庫、小工場、工場、事務所等の順位なり、之を表示すれば左の如し。

種別	要		移轉		建物	
	棟數	要移轉棟數に對する百分比	延坪數	一棟平均坪數		
祠宇	三	〇・二九	三・二九坪	一・二〇坪		
醫院	一	〇・〇九	一九・三〇	一九・三〇		
銀行	二	〇・一九	五四・六八	二七・三四		
事務所	二	〇・一四	八八・二三	二四・四八		
住宅	三五	三・〇二	五、七五・二六	一七・八〇		
旅館	一	〇・〇九	五五・五〇	五五・五〇		
木賃宿	一	〇・〇九	二七・〇〇	二七・〇〇		
商店	二六	二・七二	五、五七・九四	一九・四七		
飲料店	三	〇・二九	五七・〇〇	一九・〇〇		
浴場	三	〇・二九	四四・八四	一七・〇三		
理髮店	四	一・三三	一六三・五九	五五・五五		
運送業	四	〇・四八	二九八・四四	二二・三三		
工場	四	〇・四八	五九・六八	一四・九四		
小工場	四	〇・四八	四、六四・八八	一三・七九		
倉庫	二〇	二・五〇	八二・九八	一八・四九		
自動車	三	〇・二九	五、三三・九八	四七・六三		
其他	一四	一・三七	五、三三・五五	一八・八九		
計	一〇八	一〇〇・〇〇	二五、五〇・七三	二四・三三		

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て假設建築物として新築、

運輸場	四	五	〇・四	四・六	二・七	二
工場	四	〇	三・九	四・四	一・八	一・三
小倉	二	〇	〇・五	一・〇	〇・九	〇・七
倉庫	三	〇	〇・二	〇・七	〇・七	〇・七
自動車	一	四	一・三	一・七	一・三	一・三
その他	一	〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
計	一〇	一四	一〇・八	一〇・〇	二五・五	二四・三

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て假設建築物として新築、改築、増築等の爲東京府知事に許可申請を爲したるもの建物四百七十三棟、内許可せられたるもの三百三十七棟、許可せられざりしもの百三十六棟なり、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず新築、改築、増築等を爲し事業施行の必要上移轉を要したるもの七十九棟なり。

第二章 移轉計畫

本地區は之を三十四箇の移轉群に分ち、大正十五年三月より建物及工作物の現状調査に著手し、調査の移轉群より逐次移轉工法並工程を定め、昭和二年七月全部の移轉計畫を終了せり。而して要移轉建物千四十八棟に對する移轉工法を見るに、曳方に依るもの四百七棟にして三割八分を占め、之に次ぐは曳方一部除却の三百四十棟にして三割二分に相當し、他は移築、移築一部除却、据置一部除却、曳方一部移築、曳方一部移築一部除却の順位なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	工法別		棟數		計
	曳方一部移築一部除却	曳方一部移築	移築一部除却	据置一部除却	
木造建物	四〇六	八	一四八	六	一、〇四二
煉瓦造平家建	一	一	三	一	四
同三階建	一	一	一	一	一
鐵骨造平家建	一	一	一	一	一
計	四〇七	八	一五三	七	一、〇四八
要移轉總棟數に對する百分比	三六・四	〇・六	三三・四	〇・九	一〇〇・〇

第六十地區 乙 建物其の他の工作物移轉

前記計畫に依るときは要移轉建物千四十八棟此の延坪數二萬五千五百一坪七合三勺は、整理後に於て其の棟數に増減なきも、坪數に於ては七分五厘の縮少を來し二萬三千五百八十坪二合となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

種別	整理前建物		整理後建物		差引減	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造建物	一、〇四三	二五、五七・六坪	一、〇四三	二五、四八・七五坪	—	一、九九・〇三坪
煉瓦造家建	四	一六・四五	四	一六・四五	—	—
同階家建	一	一五・〇〇	一	一五・〇〇	—	—
鐵骨造家建	一	七・五〇	一	七・〇〇	—	二・五〇
計	一、〇四八	三五、五〇・七三	一、〇四八	三五、天〇・三〇	—	一、九二・三五

建物の移轉實施期間を大正十五年八月より昭和三年十月迄の二年三月とし、大正十五年に於て三百十三棟、昭和二年に於て五百二十三棟、同三年に於ては十月迄に二百十二棟の工事を完了することに豫定したり。

第三章 移轉手續

第一節 移轉命令

大正十五年四月二十四日第一次移轉命令として、入船町の一部第三移轉群の建物二十一棟及工作物に對し移轉命令二十九通、同通知十七通を發し、爾來引續き發令に努め昭和二年八月五日辨天前河岸の一部第三十四移轉群殘部の發令を最後とし、要移轉建物千四十八棟の内協議移轉に依る六十四棟を除きた

る九百八十四棟及工作物に對し、移轉命令九百十一通、同通知七百六十二通を發し茲に全部の發令を終

第三章 移轉手續

第一節 移轉命令

大正十五年四月二十四日第一次移轉命令として、入船町の一部第三移轉群の建物二十一棟及工作物に對し移轉命令二十九通、同通知十七通を發し、爾來引續き發令に努め昭和二年八月五日辨天前河岸の一部第三十四移轉群殘部の發令を最後とし、要移轉建物千四十八棟の内協議移轉に依る六十四棟を除きた

る九百八十四棟及工作物に對し、移轉命令九百十一通、同通知七百六十二通を發し茲に全部の發令を終へたり。

第二節 協議移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物六十四棟、工作物十一件あり、内建物十六棟、工作物四件は官公署の所有にして、事業實施の便宜上協議移轉を爲したるもの、其の他の建物四十八棟、工作物七件は民有にして内建物十五棟は幹線第二十七號及補助線第二百二十號街路築造工事の爲急速移轉を要したるもの、他の建物三十三棟、工作物七件は移轉促進の爲特に急施を要したるものなり。

右の外一旦移轉を了したる建物にして其の敷地が橋臺地々揚に伴ひ宅地造成を要したる爲、更に本手續に依り二重移轉を爲したるもの百十五棟あり、之を橋梁別に示せば左の如し。

澤海橋	七棟	要橋	八棟	鶴壽橋	五棟	築島橋	二棟	鶴島橋	一棟
下木橋	四棟	舟木橋	十六棟	汐見橋	十七棟	伊東橋	三棟	幾世橋	六棟
龜井橋	十三棟	鹿ノ子橋	七棟	島田橋	十三棟	平木橋	一棟	平野橋	十二棟

第四章 損害補償

第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、即ち大正十五年五月建物及工作物の新築費並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定

第六十地區 乙 建物其の他の工作物移轉

一〇〇〇

を爲し、同年七月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は昭和二年十月迄に終了し、又補償審査會に於ける補償金の決定も回を重ねること二十九回（變更案の決定を含む）にして同年十一月一先終了したるが、其の後に至り既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと十九回に及び同四年十二月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては、調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其の他の移轉料總額は左表の如く九十七萬七千六百六十八圓三十六錢にして、内國負擔額五十四萬三千八百九十二圓七十錢、市負擔額四十三萬三千二百七十五圓六十六錢なり。

種別	棟數	延坪數	補償金	區分金額		坪當
				金額	坪當	
一般移轉	一、〇四八	二五、五〇・七三 ^坪	九七、二六・三 ^円	三九、八三・七四 ^円	一五・六〇	
橋臺地々揚に依る二重移轉	二一五	三、六七・五 ^坪	五、八二・〇五	三、九三・二一	八・九	
合計	一、二六三	二九、一八・二九	一〇三、〇八・三六	四三、七六・九五	一五・二四	
				二、九三・八二	〇・五	
				八七、五九・五〇	三・四三	
				二二、一七・二〇	四・七	
				六、八七・九四	二・六	
				九七、二六・三三	三・九	
				五、八二・〇五	一六・二四	
				九七、一六・三六	三・四	

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。

種別	棟數	延坪數	延一坪棟數	新築費	坪當單價

橋臺地々揚に 依る二重移轉	一、二五	三、六七・五	五、八二・〇五	建物移轉料其他	五、八二・〇五	一六・二四
合 計	一、二五	三、六七・五	五、八二・〇五	雜 費	六、八七・四	二・六
				計	九七、二六・三	三・七
					九七、二六・三	三・七
					九七、二六・三	三・七

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。

種 別	棟 數	延 坪 數	延一棟 坪當 數	新 築 費	坪當單價
木 造 建 物	一、〇四二	二五、三九・七 ^坪	二四・三七 ^坪	一、四五、六〇・六 ^円	五・七三 ^円
煉 瓦 造 建 物	四	一六・四五	四・二	二、四九・八五	一四八・三
同 階 建 物	一	一五・〇〇	一五・〇〇	三、七八・〇〇	一五・〇〇
鐵 骨 造 建 物	一	七・五〇	七・五〇	三、二六・五〇	四五・〇〇
工 作 計 物	一	二五、五〇・七 ^坪	二四・三三	一、〇一、七五・七	三九・六七
	一、〇四八			二、四三六、八三・二〇	九三・五

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は大正十五年七月より開始し、爾來決定の都度之が通知をなし昭和二年十一月を以て一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は同四年十二月に及びたり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は大正十五年八月より之が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額九十七萬五千六百二十四圓九十四錢にして、内國負擔額五十四萬三千八百九十二圓七十錢、市負擔額四十三萬千七百三十二圓二十四錢なり。

第五章 移轉實施

第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く大正十五年八月より昭和三年十月迄に完了する豫定なり

第六十地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第六十地區 乙 建物其の他の工作物移轉

一〇〇二

しが、之が實施に至りては各年共豫定の工程を見る能はず、最終工期たる昭和三年十月迄に工事完了の豫定なりし千四十八棟の内九百二十四棟は豫定期間中に、殘餘の百二十四棟は翌四年五月迄に、建物以外の工作物も亦同時期迄に移轉を了し、結局豫定に遅ること七箇月にして全部の完了を見たり、之を移轉手續別に分類するときは命令に依りたるもの九百八十四棟代執行を爲したるもの五棟を含む協議に依りたるもの六十四棟なり。

移轉實施月別棟數表

(本表棟數は協議移轉及直轄移轉のものを含む)

年	月	移轉命令		補償金決定		工事完了豫定		工事完了	
		月別	累計	月別	累計	月別	累計	月別	累計
大正十五年 昭和元年	四月	二〇七	二〇七	—	—	—	—	—	—
	五月	二〇五	四一二	—	—	—	—	—	—
	六月	二〇五	六一七	—	—	—	—	—	—
	七月	—	六一七	—	—	—	—	—	—
	八月	—	六一七	—	—	—	—	—	—
	九月	—	六一七	—	—	—	—	—	—
	十月	—	六一七	—	—	—	—	—	—
	十一月	—	六一七	—	—	—	—	—	—
	十二月	—	六一七	—	—	—	—	—	—
	一月	—	六一七	—	—	—	—	—	—
	二月	—	六一七	—	—	—	—	—	—
	三月	—	六一七	—	—	—	—	—	—

昭和二年
八七六
月月月
一
九〇五
九九四
九〇四
一六
四六
四二
四〇
二
二
二

第二節 代執行

昭和四年					昭和三年											昭和二年						
五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八	七	六			
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月			
						六	四	一	五		一	二	四				一	七	三	九	一	
						一、〇四八	一、〇三三	一、〇一八	一、〇〇七	一、〇〇二	一、〇〇二	一、〇〇一	一、〇〇九	一、〇〇五	一、〇〇五	一、〇〇五	一、〇〇五	一、〇〇四	九九七	九九四	九〇五	
						六	四	一	五		一	二	四			一	九	八	二	三	六	
						一、〇四八	一、〇三三	一、〇一八	一、〇〇七	一、〇〇二	一、〇〇二	一、〇〇一	一、〇〇九	一、〇〇五	一、〇〇五	一、〇〇五	一、〇〇四	八五	七四	六五	五二	四六
						七	四		五	六	四	六	五	四	三	五	九	一	五	九	六	一
						一、〇四八	一、〇三三	一、〇一七	一、〇一七	一、〇一三	一、〇〇六	九九二	九八六	九八五	八六六	八六六	八二	七〇	五五	四七	四〇	四一
三	三	三	五	三	八	三	七	六	五	三	古	空	四	四	三	三	五	四	七	七	七	二
一、〇四八	一、〇三六	一、〇三三	一、〇〇二	九八七	九七四	九六五	八九七	八八九	八一	七〇	六四七	六三三	五五四	五四	五〇三	四四三	四〇三	三六六	三六	三一	二九	

昭和四年					昭和三年											昭和二年				
五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
						六	三	九												
						九〇四	八八	五九	六二	六二	六二	六二	六二	六二						
						七	四	三	七	三	五	八	四							
						四〇	三五	三九	五四	五四	五四	三〇	三〇							
						五		六	三	三	七	六	五	九						
						六七	六二	六二	六六	三三	三三	三六	三六							
						三	七	七	三	六	五	六	三							
						二七	二七	三〇	三〇	一七	一五	九								

移轉命令を受け指定期限を経過し、現場係員より工事實施方に付屢次誘導督勵を爲すも、容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したる人員百二十六人、建物百七十七棟ありたり。
前記の内戒告後も尙其の義務を履行せざる爲代執行を爲したる人員五人、建物五棟あり、其の主なる原因は補償金額に不服を唱へ移轉を肯ぜざりしもの一人一棟、全く義務者の怠慢に因るもの四人四棟なり。

第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始に伴ひ臨時收容家屋の必要に迫られたるを以て、大正十五年十月鹽崎町一番に移動式住宅十二棟、同物置四棟を設置し同月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ使用希望者増加したるを以て順次増設を爲し、昭和四年一月迄其の用に供したり、之が棟數及收容世帶數等を示せば左の如し。

設置場所	棟數		設置撤去		期間	住		宅物		容		
	住宅	物置	年	月		世帶數	一棟當人員	一棟當人員	世帶數			
深川區鹽崎町一番	三	四	大正一五、〇	昭和三、二	自大正一五、一〇 至昭和三、二〇	上	一四	一・二七	六	五・七五	一・二五	
同	二	三	昭和二、二	同 三、八	自昭和二、二〇 至同 三、七	上	一六	一・三三	六	八・二七	二・〇〇	
同 鶴歩町三番	七	二	同 二、〇	同 四、一	自昭和二、二〇 至同 四、一	上	五	六・四三	一四	二九・三三	七・〇〇	
計	三	九					三	二・四三	三三	二・二六	三	二・六

第四節 宅地造成

本地區は地勢一般に低濕にして従前に比し低地を換地として指定せられたるものあり、且地區の周圍

計	同 鶴歩町三番	同	番
三	七	二	三
九	二同 二、〇〇同	三昭和二、二同 三、八	四、一
		自昭和 三、二同	至昭和 三、二同
		上	上
五	四	一六	一・三
二・四	六・四	一〇六	二九・四
三・二	二・六	一四	七・〇〇
三	二・六	一四	七・〇〇
二・六	二・六	一四	七・〇〇

第四節 宅地造成

本地區は地勢一般に低濕にして従前に比し低地を換地として指定せられたるものあり、且地區の周圍に大島川、中川、大横川、二十間川あり、中央を大島川支川貫通し、之等河川の護岸の修築或は繼足工事に伴ひ、宅地造成を要せる箇所尠からず、工事件數百四十一件百八十三箇所及び、而して工事種別は盛土工最も多く八十九件百二十七箇所、その他土留工四十六件五十箇所(内大谷石積工二件二箇所此の面坪五十四坪三三、間知石積工二件二箇所此の面坪六十七坪五八、板柵工四十一件四十五箇所此の面坪千四百十七坪五七、コンクリート工一件一箇所此の面坪九坪一八)切土工六件六箇所なり。

工事著手は大正十五年八月鶴歩町三十九番の盛土工を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、昭和五年二月鶴歩町五十二番の盛土工を最後とし、百四十一件百八十三箇所の工事を全部完了したり、之に因る宅地造成完了總面積は一萬八千五百五十七坪九合なり。

前記の外澤海橋、要橋、鶴壽橋、築島橋、鶴島橋、下木橋、舟木橋、汐見橋、伊東橋、幾世橋、龜井橋、鹿ノ子橋、島田橋、平木橋、平野橋の橋臺地々揚に因る宅地造成工事二十八件五十箇所あり、其の工事種別は盛土工二十三件四十五箇所、土留工五件五箇所(内大谷石積工二件二箇所、板柵工三件三箇所)にして、昭和二年十月より同六年三月迄に橋梁工事の進捗に伴ひ工事を施行したり、之に因る宅地造成完了總面積は三千三百二十七坪二合四勺なり、以上の工事状況を表示すれば左の如し。

一般宅地造成工事状況

工事種別	工事工事 件數箇所	數量	金額	内				譯
				直	營	請	負	
土留工	四	五	一、五八・六 ^{面坪}	一	一	一	一	一、五八・六 ^{面坪}
			一五、一四・六 ^円			四	五	一、五八・六 ^{面坪}
								一五、一四・六 ^円

第六十地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第六十地區 乙 建物其の他の工作物移轉

盛土工	八九	二七	一四、六九、八九	立坪	二七、二七、二〇	六	六	二六、九四	立坪	一、五九三・〇〇	八三	二二	一四、四九二、九五	立坪	一七五、六四・一〇
切土工	六	六	三・三	立坪	一、〇九・二六	六	六	一	一	一	六	六	二八・三	立坪	一、〇九・二六
計	一四	一三	一	三〇三、五四、四	六	六	一	一	一	一、五九三・〇〇	二五	一七	一	三〇一、九二・四	一〇〇六

橋臺地々揚に因る宅地造成工事状況

盛土工	留工	計	五	三	八	五	五	五	六六・二七	面坪	八七六・九五	二、〇四一・四〇	立坪	二、四五一・四八	二、九三三・四三
工	事	種	別	工	事	件	數	工	事	箇	所	數	量	金	額

備考 工事は全部請負工事なり。

丙 地下埋設物其の他工作物整理

丙 地下埋設物其他工作物整理

第一章 概 説

本地区に於ける工事數量は本枝管線處理電柱二百五十本、管線路四千三百九十二間二、其の他三十六箇所(一地區集計電柱百七本、管線路二千八百六十四間七、應急整理一工事電柱四本、管線路十五間七、其の他二十二箇所、假本整理電柱百三十九本、管線路千五百一十一間八、其の他十四箇所)及私有管線處理千六百五十一件にして、内道路占用の許可又は承認を爲したる要求工事三百二十六件、内道路後修を要したるもの百八十二件なり、之を事業別に見るに水道工作物管線路二千九百九間三、其の他五百八十件及十七箇所整理費三萬千六百五十九圓八十五錢、市電工作物電柱二本、整理費六十三圓五十一錢、東電工作物電柱二百四十八本、管線路三百二間七、其の他八百五十九件及十九箇所整理費二萬四千四百七十一圓四十一錢、瓦斯工作物管線路千九百八十間二、其の他二百一十一件整理費一萬五千九百八十八圓五十四錢、電話一件整理費四圓なり、而して本地区に於ける整理費は總計六萬八千二百九十七圓三十一錢にして、内私有管線の二萬八千七百九十九圓五十一錢を最高とし、一地區集計の二萬四千九百六圓四十六錢之に次ぎ、其の他は假本整理、道路後修、應急整理一工事の順序なり、是等の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事一覽

種 別	市水道局		市電氣局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		電 話		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
電 柱	1	円	1	円	107本	六、二七、九五 ^円	1	円	107本	六、二七、九五 ^円	

第六十地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第六十地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

國市負擔區分

種別	水道		電氣		瓦斯	電話	計
	市	國	市	國			
一地區集計	國負擔	三,六〇三・一四		二,四五二・三〇	三,六五八・〇八		九,七三三・五三
	市負擔	五,六三三・六六		三,八三五・五五	五,七二二・六一		一五,一九二・九四
應急整理一工事	國負擔	九,三三八・八二		六,二八七・五五	九,三三九・六九		二四,九〇六・四六
	市負擔			一四八・三三			一四八・三三
假本整理	國負擔	七六・六三		八五・四九			一七二・一三
	市負擔	七六・六三		八五・四九			一七二・一三
業者拂	國負擔	二,六〇〇・七三		七,九九二・六三	二,五七六		一〇,八〇九・一〇
	市負擔	九,一七二・一九		二,四八七・三六	二,八七二・七		一四,四七六・八二
現金補償(個人)	國負擔	六,二〇一・八七		二,〇五七・九	一,八四四・九五		一〇,一五九・八〇
	市負擔	一五,三三四・〇六		四,四四二・四	四,七三三・三		二四,〇八六・三九
私線	國負擔	一,二二六・四一		一,一四二・七二	八五・三三		二,四〇四・四六
	市負擔	三九五・三		四〇二・五	一八一・八五		九八七・三
管線	國負擔	一,六三一・四		一,四四二・五	二七七・六		三,四七九
	市負擔	一〇,四八・六〇		三,六三〇・八	二,九二二・八		一六,九四一・四八
道路後修	國負擔	六,五九七・〇〇		二,四六〇・三三	二,〇七六・八〇		一一,一三〇・一三
	市負擔	一七,〇〇五・〇六		六,〇九〇・三三	四,九九七・〇		二八,〇九二・三五
合計	國負擔	二,〇四六・〇七		八六・六七	五三三・四九		三,四三六・三三
	市負擔	一四,〇一一・七四		六,一三〇・七四	六,五〇〇・八八		二六,八三三・三六
合計	國負擔	一七,〇六八・二一		一五,一四〇・六七	八,五七七・六		四一,四九三・九五
	市負擔	三,六九一・八五		二,四七二・四一	一五,〇九八・四		六八,二九七・三一

年度別工事費支拂進捗状況

種

別

大正五年

昭和二年

昭和三年

昭和四年

昭和五年

支拂

計

合 計	道 路 後 修		計	
	市 負 擔	國 負 擔	市 負 擔	國 負 擔
三、六九・八五	一七、四八・二一	一四、〇二・七四	一七、〇〇五・〇六	一〇、四八・六〇
三、六五	一七、四八・二一	一四、〇二・七四	一七、〇〇五・〇六	一〇、四八・六〇
三、六五	一七、四八・二一	一四、〇二・七四	一七、〇〇五・〇六	一〇、四八・六〇
三、六五	一七、四八・二一	一四、〇二・七四	一七、〇〇五・〇六	一〇、四八・六〇
三、六五	一七、四八・二一	一四、〇二・七四	一七、〇〇五・〇六	一〇、四八・六〇
三、六五	一七、四八・二一	一四、〇二・七四	一七、〇〇五・〇六	一〇、四八・六〇
三、六五	一七、四八・二一	一四、〇二・七四	一七、〇〇五・〇六	一〇、四八・六〇
三、六五	一七、四八・二一	一四、〇二・七四	一七、〇〇五・〇六	一〇、四八・六〇
三、六五	一七、四八・二一	一四、〇二・七四	一七、〇〇五・〇六	一〇、四八・六〇
三、六五	一七、四八・二一	一四、〇二・七四	一七、〇〇五・〇六	一〇、四八・六〇

年度別工事費支拂進捗状況

種 別	昭 和 年 代					支 拂 未 済	計
	大 正 十 五 年 昭 和 元 年	昭 和 二 年	昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年		
一 地 區 集 計	—	—	八、一五九・三六	三、〇六七・三六	一三、六七九・七四	—	一四、九〇六・四六
應 急 整 理 工 事	—	三、五	二六〇・七五	二、四二・六	五〇七・五	—	一、〇六五・九
假 本 管 線 理	—	—	四九・四二	三、一四・三	七、三三・三九	—	一〇、八〇九・二
私 有 後 修	—	—	五、四〇七・九五	一四、五五九・四三	六、三五一・三	—	二八、〇七九・五
道 路 後 修	—	—	三、六・二	二、九二・八	一、九七・五	—	三、四六・三
進 捗 歩 合 %	三、六・七	一、三九・〇	一四、五八・六	三、九六・四	二七、九三・八	一、九・六	六、二七・三
計	—	—	—	—	—	—	一〇〇

第二章 本枝管線處理

第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱七十八本、管線路二千九百八十一間八及之に關係せる各種工作物にして、此の整理費二萬四千四百七十八圓十一錢なり、而して假契約は東電工作物に關し大正十五年八月二十一日締結したるを、工事は東電工作物に關し同月二十五日著手したるを、本契約は東電工作物に關し昭和三年三月二十日締結したるを各最初とし、それより逐次各事業者と契約を締結し工事を施行したり、其の事業者別契約並工事状況を示せば左の如し。

第六十地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

一〇二二

事業業者	假契約年月日	本契約年月日	工事著手年月日	工事竣功年月日
市水道局	大正 五、三、三	昭和 三、四、二〇	昭和 三、一〇、二四	昭和 四、三、二〇
東京電燈株式會社	大正 五、八、三	昭和 三、三、二〇	大正 五、八、二五	昭和 五、一、二〇
東京瓦斯株式會社	大正 五、三、三	昭和 三、四、二〇	昭和 二、二、三	昭和 五、七、一

工事施行中設計變更を爲したる件數十件ありたる結果、管線路に於て百十七間一減少したるも電柱に於て二十九本増加したる爲、工事費に於ても四百二十八圓三十五錢の増額を爲せり、其の設計變更狀況を示せば左の如し。

種別	電柱		管線路		計
	數量	金額	數量	金額	
當初契約	本 七	四、九三、八五	二、九一、八	一九、五八、二六	二四、四六、一一
設計變更後(精算)	一〇七	六、二七、九五	二、八四、七	一八、六八、五一	三四、九六、〇六
差引増△減	元 一〇〇	一、三四、一〇	△ 二七、一	△ 九、一〇、七五	四八、一三

尙工事並支拂狀況等を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年度	電柱		管線路		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額		
大正 二五年	本 二〇	一、一七、五	一	一、五三、二	一、一七、五	三五
昭和 二五年	本 二四	一、四八、五	二八、五	一、五三、二	二、九二、二	三

昭和 二五年 一、八三、五〇 一、五〇、五七 九、二五、六四 一〇、九四、九一 四
 昭和 二五年 一、八〇、一〇 九、九二、〇 七、二四、九六 九、〇五、〇六 三六
 昭和 二五年 一、八〇、一〇 九、九二、〇 七、二四、九六 九、〇五、〇六 三六

尙工事並支拂狀況等を示せば左の如し
工事進捗狀況

年 度	電 柱		管 線		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額		
昭和六年	二〇本	一、一七五・八五	一	一、七五・八五	二、九二・六〇	三五
昭和七年	二〇本	一、一七五・八五	一	一、七五・八五	二、九二・六〇	三五
昭和八年	二〇本	一、一七五・八五	一	一、七五・八五	二、九二・六〇	三五
昭和九年	二〇本	一、一七五・八五	一	一、七五・八五	二、九二・六〇	三五
昭和十年	二〇本	一、一七五・八五	一	一、七五・八五	二、九二・六〇	三五
昭和十一年	二〇本	一、一七五・八五	一	一、七五・八五	二、九二・六〇	三五
昭和十二年	二〇本	一、一七五・八五	一	一、七五・八五	二、九二・六〇	三五

支拂狀況

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	歩 合 %
昭和三年	三三	一、八三・五〇	一、五〇・七	四
昭和四年	三三	一、八三・五〇	一、五〇・七	三
昭和五年	三三	一、八三・五〇	一、五〇・七	三
計	一〇七	六、二七・九	二、八四・七	一〇〇

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	歩 合 %
昭和三年	三、一八二・五	四、九七・三	八、一五・三	三
昭和四年	一、一九六・七	一、八七・〇	三、〇六・七	二
昭和五年	五、三三・〇	八、三四・六	一三、六七・七	五
計	九、七三・二	一五、一九・四	二四、九二・六	一〇〇

負擔別對照

負擔區分	潰地面積	比率%	市 水 道 局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計	
			契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額
幹線街路費	七、四八・五〇	三六	三、三三・九七	三、五〇・七五	二、四七・〇九	二、三九・四三	三、四六・七九	三、五六・二六	九、三〇・六六	九、四四・四五
運河費	三、〇七・六七	一	八七七・四	九三・三九	六五・〇三	六・八八	九二・〇三	九三・八〇	二四四・七八	二四九・〇七
補助線街路費	七、七六・七七	三三	三、四二・七七	三、六〇・一四	二、五五・四	二、四四・三〇	三、五八・八一	三、六八・〇八	九、五四・四	九、七三・五
市負擔	四、九〇・一〇	二二	二、一九三・四〇	二、三〇・九〇	一、六五・六一	一、五七・九	二、三〇・五二	二、三四・九三	六、二九・五三	六、三六・六一
土地整理費	七、三四・三〇	三六	三、一五・五〇	三、三三・九八	二、三四・八七	二、二六・六六	三、三二・二五	三、三六・六九	八、八二・二二	八、九六・三三
計	二、三三・四〇	六	五、三三・九	五、六三・六	三、九六・四	三、八三・三	五、六三・七	五、七二・六	一四、九三・三	一五、一三・九

第六十地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

合	計	一九九、九七五	一〇〇	八、七三三・六	九、三六八・八	六、五〇二・四	六、二八七・五	九、二〇三・〇	九、三九六・九	二四、四八二・二	二四、九六六・四
---	---	---------	-----	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	----------

補償金對照

工種	市水道局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計	
	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	四、四九二・五九	四、六九二・三元	五、六五〇・五四	五、五四〇・六四	七、七七一・四	七、三〇一・一九	一七、七六二・五九	一七、四三四・三
過不足分(一致せざる部分)	三、五三二・二九	三、〇七二・七六	三、六三三・三	四、九六・九九	九〇・一八	一、三四・九四	三、九四八・八〇	四、八三四・七一
累計する分	三三二・二七	二九六・八二			五九七・八九	九三・五六	八一九・六六	一、二〇・七
小計	八、二四一・一五	八、〇六二・九六	五、四一七・一七	六、〇七三・三	八、三五一・三三	九、三三九・六六	三、五五〇・五	三、四九三・〇
附帶工事分(假工事を含む)	五三〇・四六	一、二七六・八四	五六〇・五五	二五〇・三三	八三六・五五		一、九二七・六六	一、四七二・六
補償額計	八、七三三・六一	九、三三八・八	六、五〇二・四	六、二八七・五	九、二〇三・〇	九、三九六・九	二四、四八二・二	二四、九六六・四

第二節 應急整理一工事

本地區に於ける應急整理一工事は件數十六件整理費千六十五圓九十九錢にして、昭和二年四月一日市電氣局關係工作物の整理に著手したるを最初とし、それより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局十件金額七百六十八圓六十三錢、市電氣局一件金額六十三圓五十一錢、東京電燈株式會社五件金額二百三十三圓八十五錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工種	件數	金額
水道局	十	七百六十八圓六十三錢
電氣局	一	六十三圓五十一錢
東京電燈株式會社	五	二百三十三圓八十五錢

種別	水	道	市	電	東	電	計
金額							

本地區に於ける電氣局關係工作物の整理に著手したるを最初とし、それより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に
見るときは市水道局十件金額七百六十八圓六十三錢、市電氣局一件金額六十三圓五十一錢、東京電燈株
式會社五件金額二百三十三圓八十五錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事一覽

工種	件數	金額
水道	10	768.63
電氣	1	63.51
電燈	5	233.85
合計	16	1065.99

年 度	種 別	水 道		市 電		東 電		計	歩 合 %
		數量	金額	數量	金額	數量	金額		
合 計	管線路	13.0	234.3	2	63.5	1	63.5	13.0	105.9
	其他	7	54.3	0	0	0	0	7	54.3
道路工事支障	管線路	13.0	234.3	0	0	0	0	13.0	105.9
	其他	7	54.3	0	0	0	0	7	54.3
建物移轉支障	管線路	0	0	0	0	0	0	0	0
	其他	0	0	0	0	0	0	0	0
出入口支障	電柱	0	0	2	63.5	0	0	2	15.8
	電柱	0	0	2	63.5	0	0	2	15.8
合 計	管線路	13.0	234.3	2	63.5	1	63.5	16	105.9
	其他	7	54.3	0	0	0	0	7	54.3

第六十地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第六十地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

年	昭 和 五 年	昭 和 四 年	昭 和 三 年	昭 和 二 年	計
本	二	二	二	二	八
國	四	一	一	一	七
負	一四・〇八	一	八・五	三・五	二四・〇八
擔	一五・七	二・七	一三・〇	一	三二・四
市	二四・二	二九・九	一三・三	一	七八・八
負	三	二	三	二	十
擔	一四・二五	二五・〇六	三六・八五	一七〇・六四	三六六・八〇
計	一四・二五	一四・八五	六七・七四	一三三・一五	二一〇・九九
步	一〇	一	三	一	一〇
合	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
%	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

一〇一六

支拂狀況

年	昭 和 五 年	昭 和 四 年	昭 和 三 年	昭 和 二 年	計
國	一四・〇八	一	八・五	三・五	二四・〇八
負	一五・七	二・七	一三・〇	一	三二・四
擔	二四・二	二九・九	一三・三	一	七八・八
市	三	二	三	二	十
負	一四・二五	二五・〇六	三六・八五	一七〇・六四	三六六・八〇
計	一四・二五	一四・八五	六七・七四	一三三・一五	二一〇・九九
步	一〇	一	三	一	一〇
合	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
%	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は件數三十二件整理費一萬八百九圓十二錢全部市負擔にして、昭和二年三月三日東京電燈株式會社關係工作物の整理に著手したるを最初とし、それより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局一件金額二千六百圓七十三錢、東京電燈株式會社三十件金額七千九百九十二圓六十三錢、東京瓦斯株式會社一件金額二百十五圓七十六錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事種別

水

道

東

電

瓦

新

計

昭 和 計	昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	昭 和 六 年	大 正 十 五 年
一元八	九〇	三三	六二	二六	本元
五、八三〇・七〇	四八・一九	三、九五・五二	一、〇八・七二	三三・元	七四・八九
一、五二・八	一、五〇・八	一、〇	一、〇	一、〇	間
四、七七・五六	四、六六・七三	三〇・八三	一、〇	一、〇	円
一四	一〇	二	二	二	ヶ所
二五二・八六	三〇・二	一八・六八	一三・〇七	一三・〇七	円
一〇、八九・二三	四八・一九	八、八三・三六	一、一五・三三	三、五・四六	七四・八九
一〇	四	八	二	三	一

支拂状況

昭 和 計	昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	年 度	市 負 擔	歩 合	%
計	五	四	三	年	四元・四三		一
					三、四・三三		七
					七、三三・五九		七
					一〇、〇九・三三		一〇

第三章 私有管線處理

本地區に於ける私有管線整理工事に關する申請書の受付は大正十五年七月五日より之を開始し、昭和六年三月二十日迄に全部の受付を了せり、而して工事は大正十五年八月二日之に著手しそれより順次建物移轉の進捗に伴ひ各種工作物の整理を爲し、昭和六年三月三十一日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は千六百五十一件金額二萬八千七十九圓五十一錢にして、之を事業別に見るときは水道五百八十件金額一萬七千五圓六十錢、東電八百五十九件金額六千九百九十圓三十一錢、瓦斯二百一十一件金

額四千九百七十九圓六十錢、電話私設電話一件金額四圓なり、尙建物一棟當りの裝置數を見るに水道〇・五五栓、電燈二・二五燈、瓦斯〇・二個計量器數なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

本地區に於ける私有管線整理工事に關する申請書の受付は大正十五年七月五日より之を開始し、昭和六年三月二十日迄に全部の受付を了せり、而して工事は大正十五年八月二日之に著手しそれより順次建物移轉の進捗に伴ひ各種工作物の整理を爲し、昭和六年三月三十一日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は千六百五十一件金額二萬八千七十九圓五十一錢にして、之を事業別に見るときは水道五百八十件金額一萬七千五圓六十錢、東電八百五十九件金額六千九百九十圓三十一錢、瓦斯二百一十一件

金額四千九百七十九圓六十錢、電話(私設電話)一件金額四圓なり、尙建物一棟當りの裝置數を見るに水道〇・五五栓、電燈二・二五燈、瓦斯〇・二個(計量器數)なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 狀 況			支 拂 狀 況			計 況		
	件 數	金 額	歩 合 %	件 數	金 額	歩 合 %	件 數	金 額	歩 合 %
大正十五年	一三八	四、〇五・〇一	一四	八	二二九・四〇	五	一四七・三三	三六・七三	一
昭和二年	五五〇	九、三五〇・五	三三	四	七〇〇・八	三〇	四五五・四	一、七五・〇九	四
昭和三年	七四〇	一三、五七・七九	四五	一五	三、三三・八七	一〇二	二、〇六・〇八	五、〇七・九五	九
昭和四年	二六	一、九九・三五	七	五七	八、八七・八五	三九〇	五、七四・五九	一四、五九・四三	三
昭和五年	七	二六・二	一	一九	三、八三・二六	二七	二、五八・八五	六、三三・一三	三
未 済	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一、六一	二八、〇九・五一	一〇〇	九〇	一六、四一・四八	六二	一一、二八・〇三	二八、〇九・五一	一〇〇

備考 △印は再設費未支拂(撤去費は支拂済)のもの。

前記の内事業者拂に屬するもの千六百三十八件金額二萬四千六百三十一圓六十二錢にして、内國負擔九百八十四件金額一萬四千四百七十六圓八十二錢、市負擔六百五十四件金額一萬百五十四圓八十錢なり尙現金補償に屬するもの(移設費を含む)二百三十件金額三千四百四十七圓八十九錢にして、内國負擔百五十三件金額二千四百六十四圓六十六錢、市負擔七十七件金額九百八十三圓二十三錢なり、其の負擔狀況を示せば左の如し。

種 別	水 道		東 電		瓦 斯		電 話		計	
	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額

合 計	事業 者 拂		補 現 補 再		補 移 補 再		補 現 補 再		合 計
	市 國	市 國	市 國	市 國	市 國	市 國	市 國	市 國	
五八〇・一七・〇五・六〇	二五二	九、一七二・一九	八五九	九、一七二・一九	六	六	六	六	五八〇・一七・〇五・六〇
八五九	二、四八七・三六	三、四七	二、〇五七・九六	八五九	四、四八五・四三	一〇〇	一、一二七・七三	四七	四〇二・二五
二二	二、八七二・七	八	一、八九四・九五	二二	四、七三三・三三	五	一八・八五	三	三六七・元
二二	二、八七二・七	—	—	—	—	—	—	—	—
四・〇〇	九八四	四・〇〇	一〇、一五四・八〇	四・〇〇	一、六八八	一〇	二、八二・四三	七〇	八〇三・七九
一、六五二	一四、四七六・八三	—	—	—	—	—	—	—	—
二八、〇七九・五一	二八、〇七九・五一	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 合計件数欄中には再設費補償件数を含まず。

第四章 道路占用

本地區に於ける占用事務は大正十五年十二月十日之を開始し昭和四年三月三十一日閉止の豫定なりしが、建物移轉並道路工事の關係により同年十二月二十五日之を閉止せり、而して翌五年二月二十八日迄に臺帳の作成を了し市土木局に引繼を爲せり。

本地區に於ては昭和二年一月十五日東京電燈株式會社及東京瓦斯株式會社に對し一括許可を爲したるを最初とし、それより各事業者に許可又は承認を爲したり、而して右に對する分割許可又は承認は昭和二年二月二十日東京電燈株式會社に許可せるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲し

同四年十二月十三日市土木局下水課に承認せるを最終とし要求工事三百二十六件、非要求工事五百八件の許可又は承認を爲したり、其の狀況を示せば左の如し。

本地区に於ける占用事務は大正十五年十二月十日之を開始し昭和四年三月三十一日閉止の予定が、建物移轉並道路工事の關係により同年十二月二十五日之を閉止せり、而して翌五年二月二十八日迄に臺帳の作成を了し市土木局に引繼を爲せり。

本地区に於ては昭和二年一月十五日東京電燈株式會社及東京瓦斯株式會社に對し一括許可を爲したるを最初とし、それより各事業者に許可又は承認を爲したり、而して右に對する分割許可又は承認は昭和二年二月二十日東京電燈株式會社に許可せるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲し

同四年十二月十三日市土木局下水課に承認せるを最終とし要求工事三百二十六件、非要求工事五百八件の許可又は承認を爲したり、其の狀況を示せば左の如し。

事業業者	一括占用許可		分割許可		承認
	承認年月日	最初年月日	最終年月日	件數	
市水道局	昭和二、一、九	昭和二、四、一	昭和四、二、一	一七〇	一九
市土木局下水課	昭和二、二、三	昭和二、六、七	昭和四、三、三	一	三
東京電燈株式會社	昭和二、一、五	昭和二、二、〇	昭和四、三、五	〇	五
東京瓦斯株式會社	昭和二、一、五	昭和二、三、三	昭和四、二、五	一〇八	二四九
					三六二
					三三七

第一 要求工事

本地区に於ける要求工事は三百二十六件其の延長四千二百十間三一、掘鑿面坪千二百八十七坪九九にして、之を事業者別に見るときは市水道局百七十件其の延長二千四間〇二、掘鑿面坪五百九十九坪五五東京電燈株式會社四十八件其の延長八百八十九間七八、掘鑿面坪三百四坪四一、東京瓦斯株式會社百八件其の延長千三百十六間五一、掘鑿面坪三百八十四坪〇三なり、尙之を類別すれば大掘鑿六十八件其の延長三千六百七十四間七八、掘鑿面坪千四百五坪〇七、小掘鑿二百五十八件其の延長五百三十五間五三、掘鑿面坪百四十二坪九二なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計
		件數	延長	件數	延長	
	東京電燈株式會社	四	一五・〇〇	一	一	四
			七・五			一五・〇〇
						七・五

第六十地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第六十地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

一〇二二

事業業者	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
大正五年 東京瓦斯株式會社	一	三六・〇〇	一	一四・七〇	一	一四・七〇	七二・〇〇
昭和元年 東京瓦斯株式會社	五	五・〇〇	一	一	五	五・〇〇	一四・七〇
市水道局	一	一三・九〇	三	三・八七	一	八・九六	四・八三
東京電燈株式會社	〇	一四・二五	一	五・七	〇	一四・二五	五・七一
東京瓦斯株式會社	二	三九・二五	一	八・五七	三	八五・二七	二五・五九
計	一〇	一〇二・五〇	一三	三三・二二	一三	三三・二二	一〇二・五〇
昭和二年 東京電燈株式會社	一	二・〇〇	一	一七・五九	一	一八・五九	四・八九
市水道局	一	二・〇〇	一	一七・五九	一	一八・五九	四・八九
東京電燈株式會社	一	二・〇〇	一	一七・五九	一	一八・五九	四・八九
東京瓦斯株式會社	一	二・〇〇	一	一七・五九	一	一八・五九	四・八九
計	二	四・〇〇	二	三五・一八	二	三七・一八	四・八九
昭和三年 市水道局	一	二・〇〇	一	一七・五九	一	一八・五九	四・八九
東京電燈株式會社	一	二・〇〇	一	一七・五九	一	一八・五九	四・八九
東京瓦斯株式會社	一	二・〇〇	一	一七・五九	一	一八・五九	四・八九
計	二	四・〇〇	二	三五・一八	二	三七・一八	四・八九
昭和四年 市水道局	一	一・五〇	一	一七・〇〇	一	一八・〇〇	四・八〇
東京電燈株式會社	一	一・五〇	一	一七・〇〇	一	一八・〇〇	四・八〇
東京瓦斯株式會社	一	一・五〇	一	一七・〇〇	一	一八・〇〇	四・八〇
計	二	三・〇〇	二	三四・〇〇	二	三六・〇〇	四・八〇
昭和五年 市水道局	一	一・六九	一	一六・八	一	一七・四九	四・七九
東京電燈株式會社	一	一・六九	一	一六・八	一	一七・四九	四・七九
東京瓦斯株式會社	一	一・六九	一	一六・八	一	一七・四九	四・七九
計	二	三・三八	二	三三・六	二	三四・九八	四・七九
合計	六	六三・六六	七	六九・七九	六	七二・九二	二・二七・九

前記要求工事三百二十六件の内道路後修を要したるもの百八十二件金額三千四百三十六圓二十三錢ありたり、其の支拂狀況を示せば左の如し。

事業業者	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
市水道局	一	一・五〇	一	一・五〇	一	一・五〇	四・五〇
東京電燈株式會社	一	一・五〇	一	一・五〇	一	一・五〇	四・五〇
東京瓦斯株式會社	一	一・五〇	一	一・五〇	一	一・五〇	四・五〇
計	三	四・五〇	三	四・五〇	三	四・五〇	一三・五〇

前記要求工事三百二十六件の内道路後修を要したるもの百八十二件金額三千四百三十六圓二十三銭ありたり、其の支拂狀況を示せば左の如し。

事業業者	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		計
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
市水道局	一五	一七四・四五	九	九一、八七・六二	九	二、〇四六・〇七	
東京電燈株式會社	一	一七・五	二	一六、八四・六	一	八六・七	
東京瓦斯株式會社	一五	一四一・六	一六	一九二・〇八	一	五三・四	
計	三一	三三三・二	二五	三九三・八六	一	三、四三六・三	

第二 非要求工事

本地區に於ける非要求工事は五百八件其の延長五千六百十間九一、掘鑿面坪二千二百二十七坪六七にして、之を事業者別に見るときは市水道局百九十一件其の延長千九百七十六間三、掘鑿面坪五百四十六坪六三、市土木局下水課三件其の延長四百二十五間二五、掘鑿面坪五百二十九坪九一、東京電燈株式會社六十五件其の延長千五百二十五間六三、掘鑿面坪五百三十六坪九四、東京瓦斯株式會社二百四十九件其の延長千六百八十三間七三、掘鑿面坪五百十四坪一九なり、尙之を類別すれば大掘鑿百十五件其の延長三千九百三十三間五八、掘鑿面坪千六百八十三坪八八、小掘鑿三百九十三件其の延長千六百七十七間三三、掘鑿面坪四百四十三坪七九なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計	
		件数	延長	件数	延長	件数	延長
昭和二年	市水道局	三	四七・五	三	九七・二六	六	一四四・七六
	市土木局下水課	一	九・六七	一	二四・三	二	九六・〇
	東京電燈株式會社	六	二七九・八	一	一八・〇三	七	二七九・八
	東京瓦斯株式會社	四	一一〇・七〇	三	一八・〇三	七	二九一・七三
計	一四	五三七・九〇	八	二六・三	二二	八六六・三	
							掘鑿面坪
							四二・〇四
							九六・〇〇
							一〇七・三四
							九五・七九
							三四三・二七

種別	昭和三年		昭和四年		合計	
	新設	撤去	新設	撤去	新設	撤去
市水道局	八	四五・二〇	三	三〇・八四	一一	七六・〇四
東京電燈株式會社	三三	七六・九九	一	—	三四	七六・九九
東京瓦斯株式會社	四	四〇・八〇	六	一四四・〇〇	一〇	一八四・八〇
計	四五	一六一・九九	九	一四四・〇〇	五四	三〇五・九九
市水道局	三	一八・六六	二	七〇・〇八	五	八八・七四
市土木局下水課	二	四三・九一	—	—	二	四三・九一
東京電燈株式會社	三〇	三三・六一	—	—	三〇	三三・六一
東京瓦斯株式會社	六	二八・五七	九	一六三・七〇	一五	一九二・二七
計	四一	一二〇・〇四	十一	二三四・〇六	五二	三五四・一〇
市水道局	三	二四九・五九	一	一八・二〇	四	二六七・七九
市土木局下水課	三	五九・九一	—	—	三	五九・九一
東京電燈株式會社	三	五九・九一	—	—	三	五九・九一
東京瓦斯株式會社	一四	三六・四五	—	—	一四	三六・四五
計	一三	三六・四五	一	—	一四	三六・四五
合計	一五三	三六三・八八	三三	三六三・八八	一八六	七二七・七六

第三 道路臺帳

道路臺帳は昭和五年二月二十八日之が作成を了し市土木局に引繼を爲せり、其の臺帳記入工作物は電柱三百一本、管線路八千八百九十三間四にして、之を類別すれば新設せるもの電柱百七十九本、管線路五千六百八十四間二六、撤去せるもの電柱百二十二本、管線路千五百四十二間六四、埋殺せるもの千六百六十六間五なり、其の事業別數量を示せば左の如し。

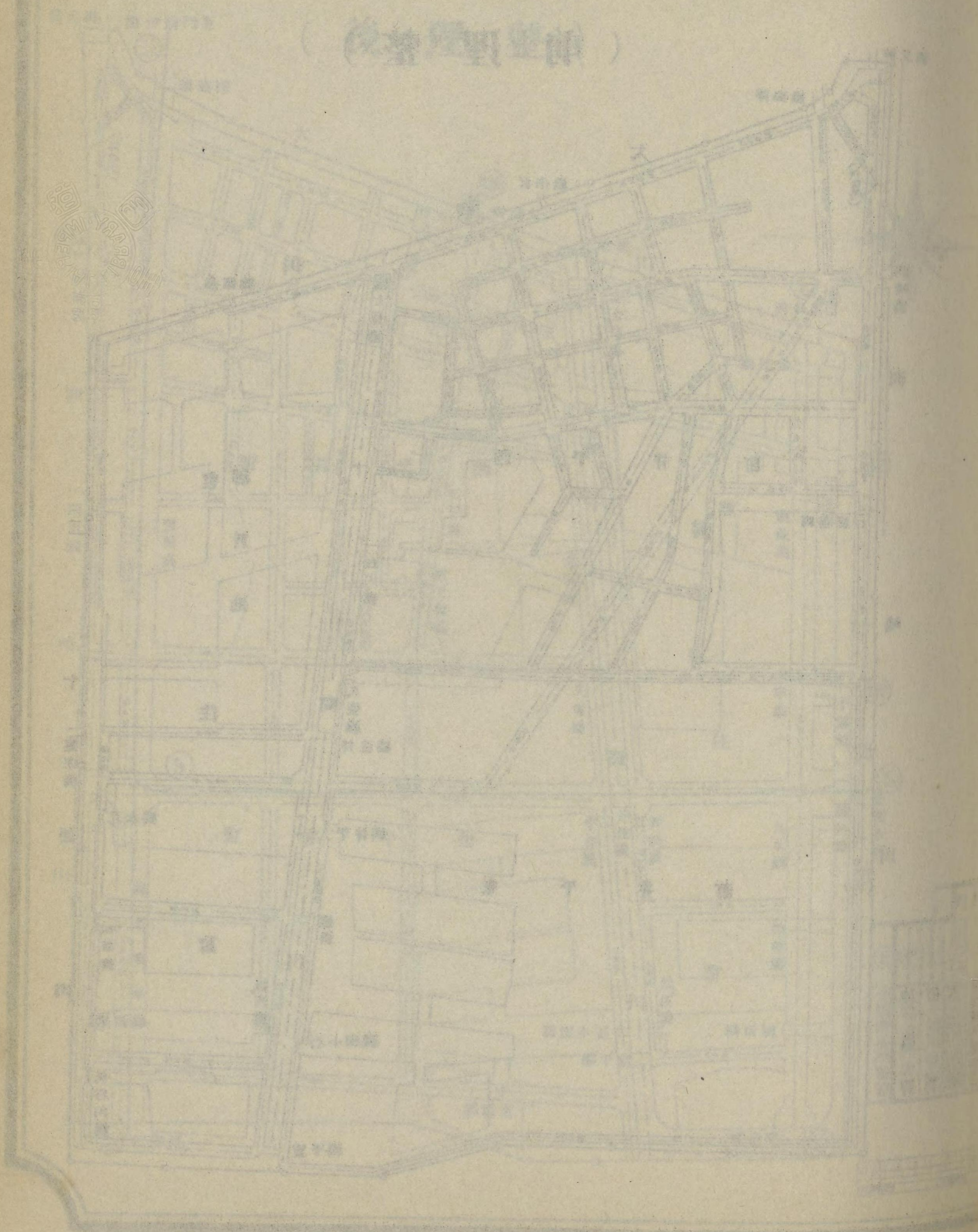
種別	新設	撤去	埋	殺	計
電柱	179	122	—	—	301
管線路	8,893	1,542	64	—	10,499

水 道 二、〇四一・三〇 三九六・一〇 七九・三〇 三、三九・七〇

卷六十一 賦圖

圖說八國後方地圖

(全圖附註)

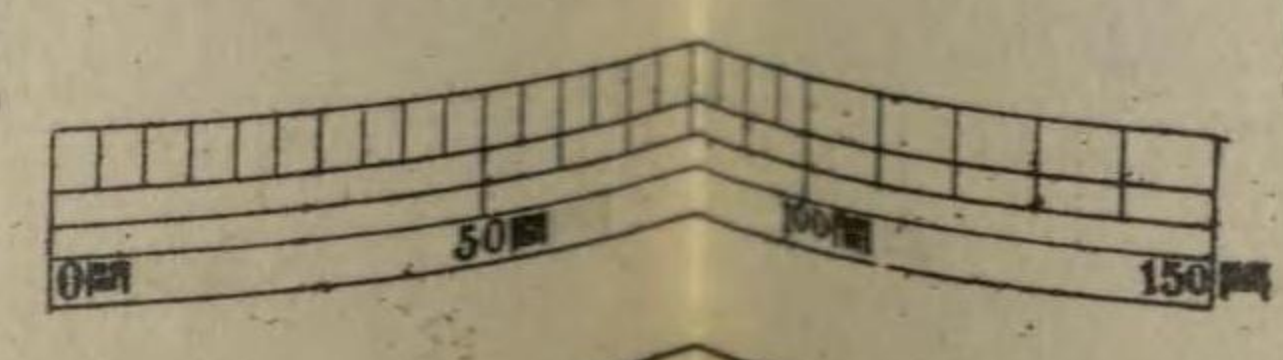


前理整區地一十六第

(前理整)

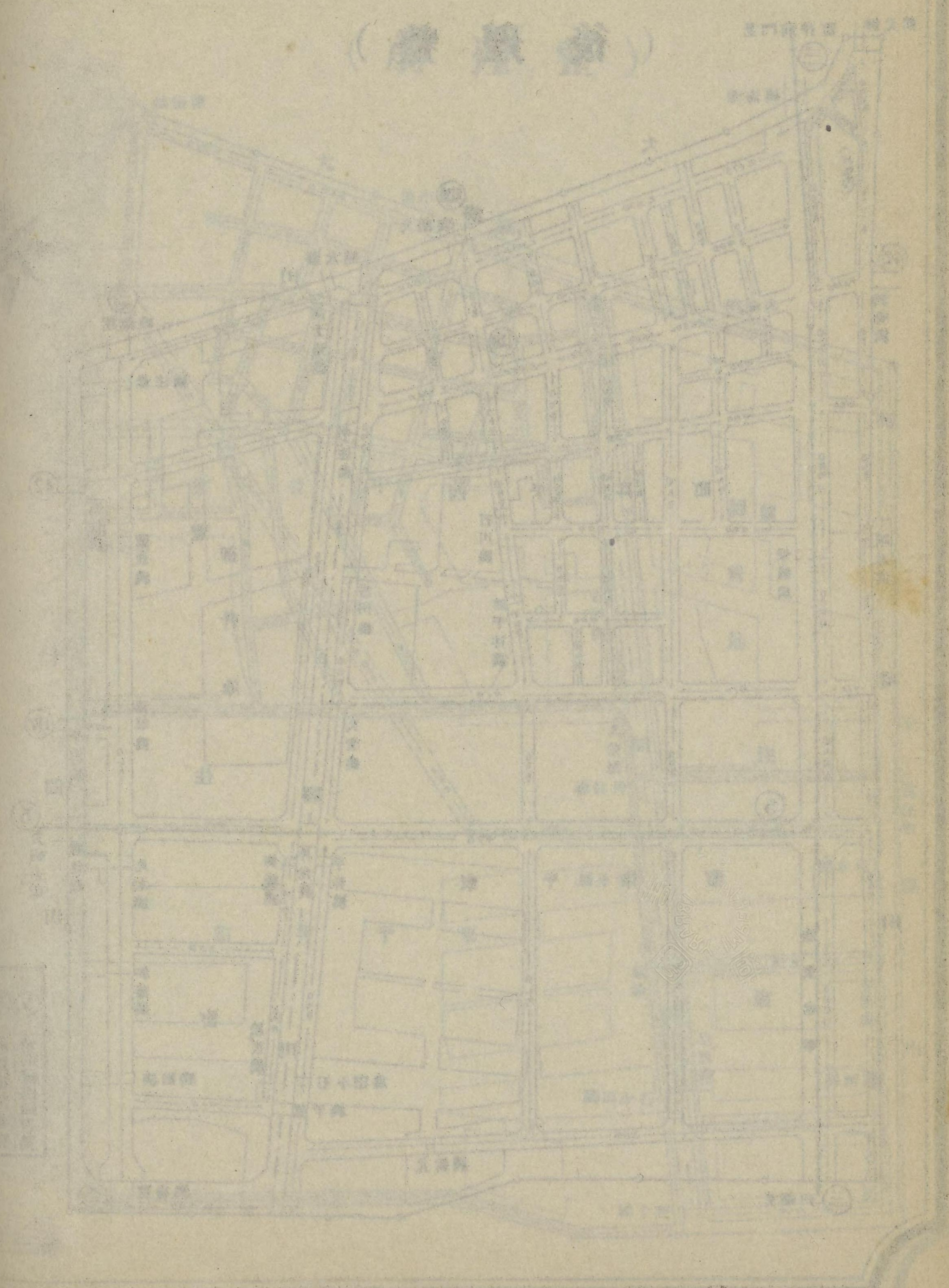


例 凡	
⑤	補助線街路番號
③	幹線街路番號
○	甲率適用
○	乙率適用
○	丙率適用
○	丁率適用
○	戊率適用
○	借地權利用割合
○	木町地界
○	地區界

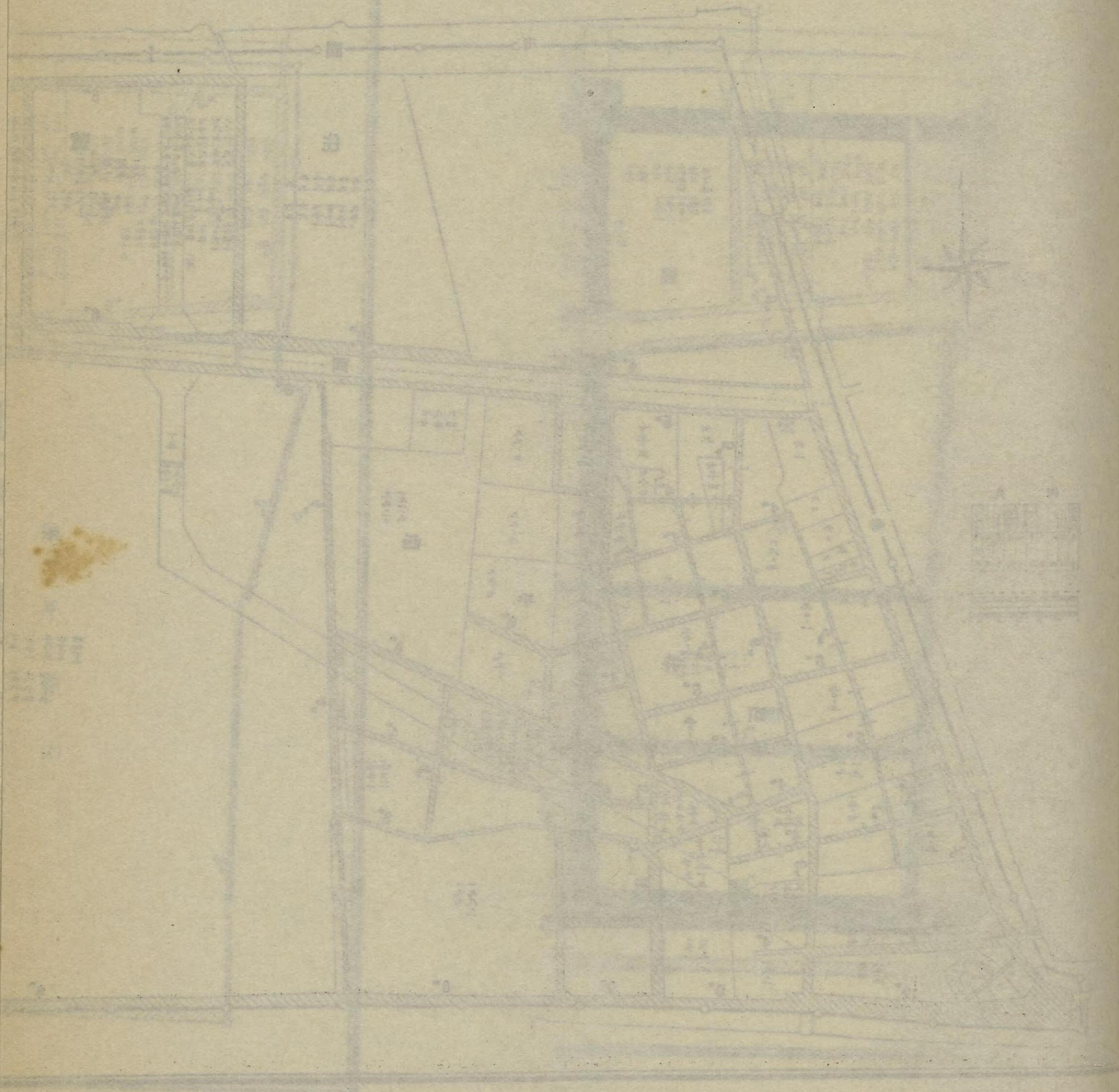


國界新圖

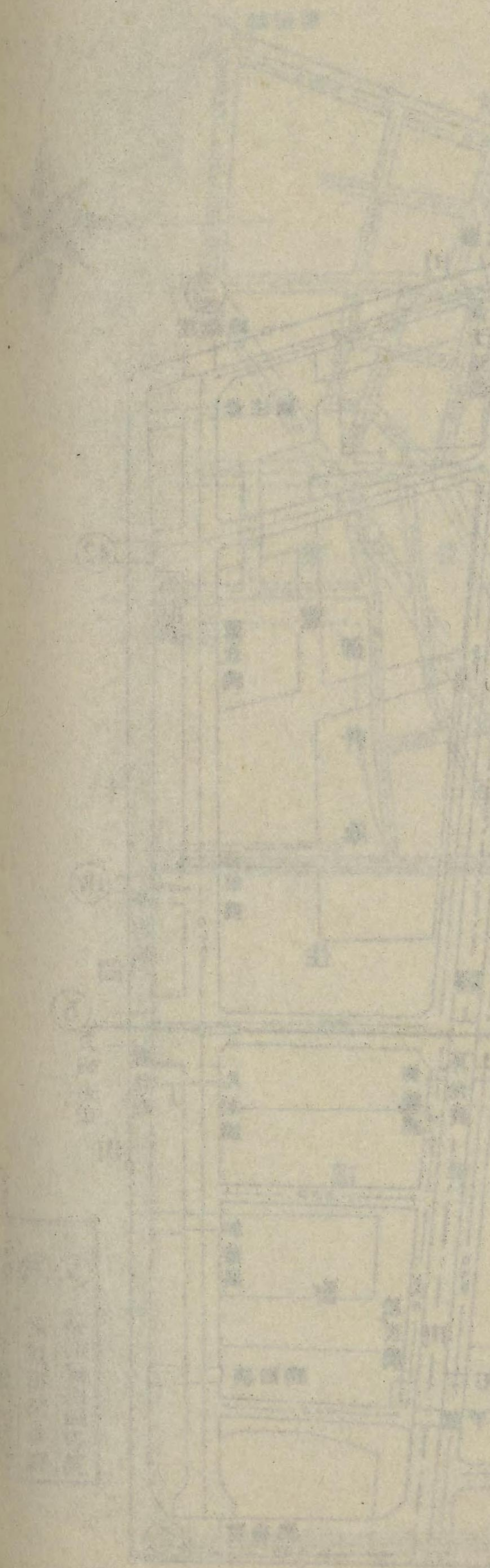
(新編)

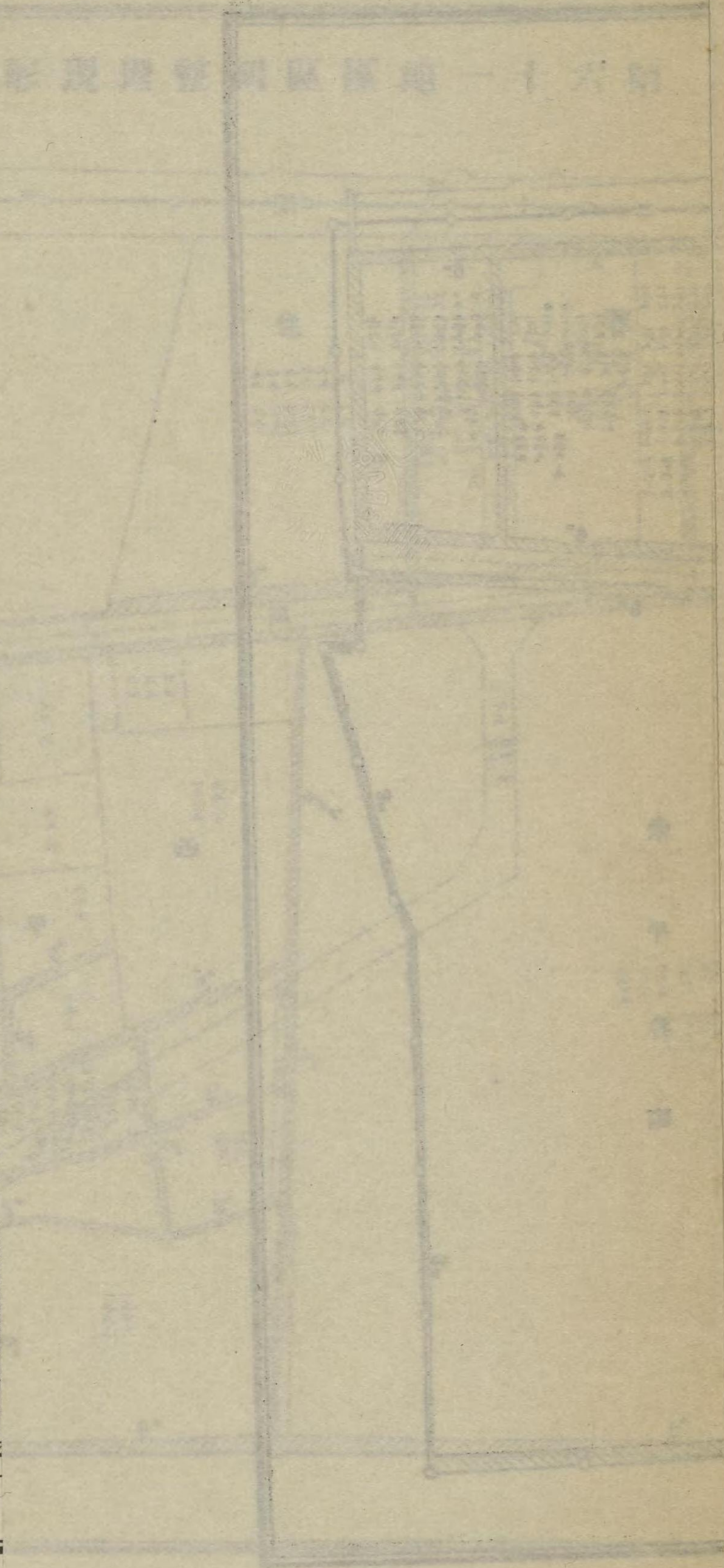
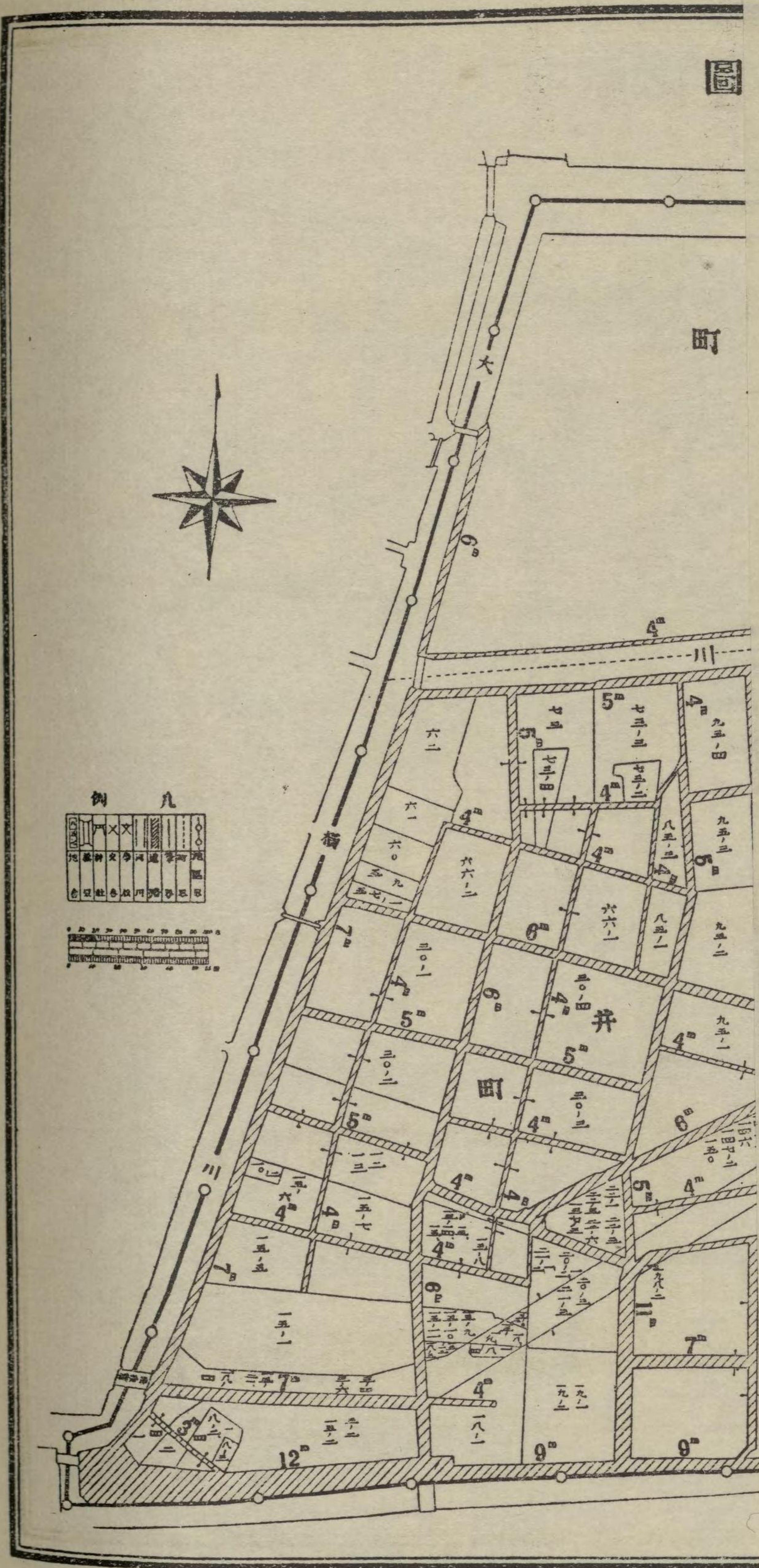
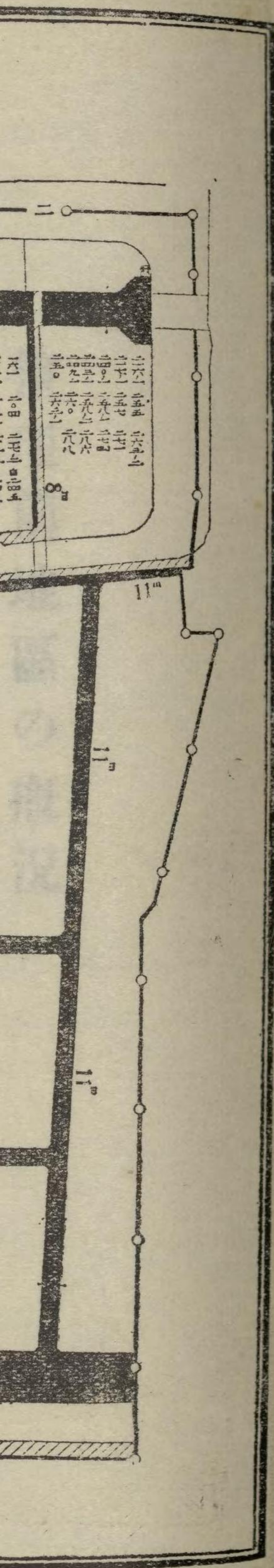


第六十一 蘇州府城圖



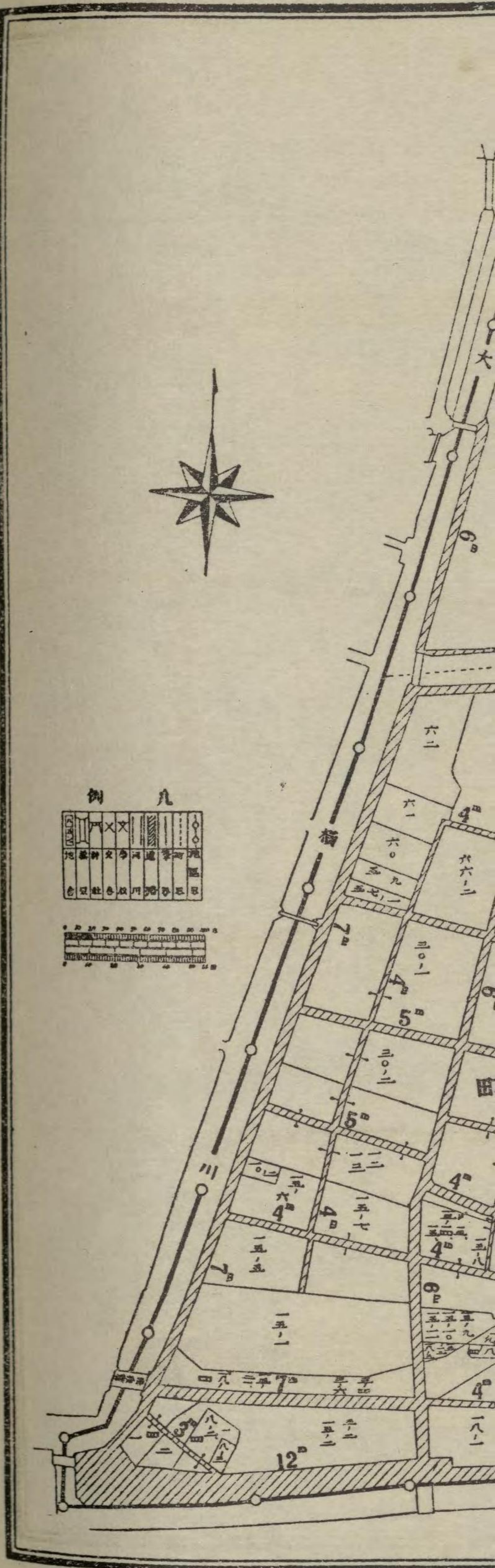
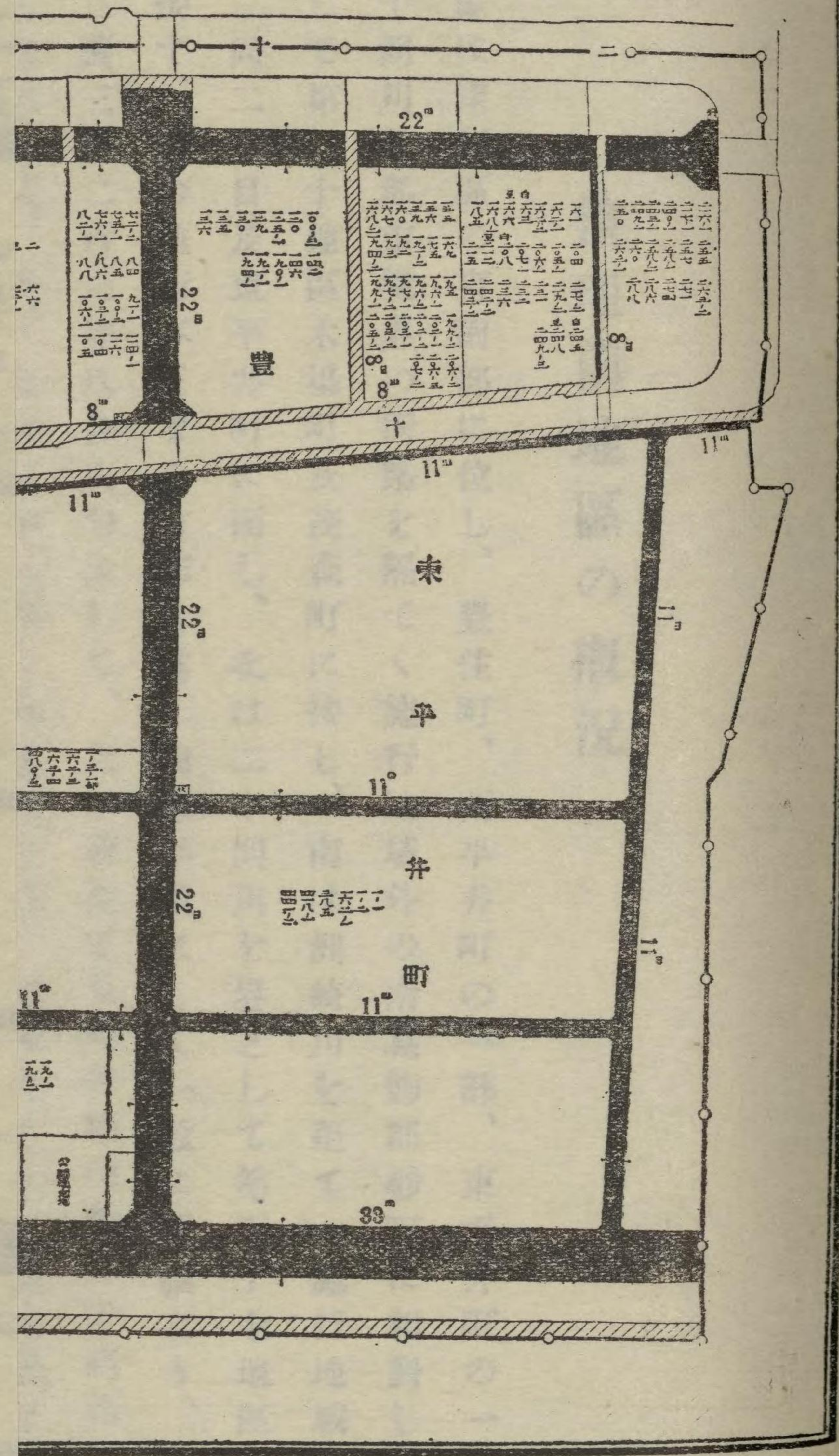
蘇州府城圖



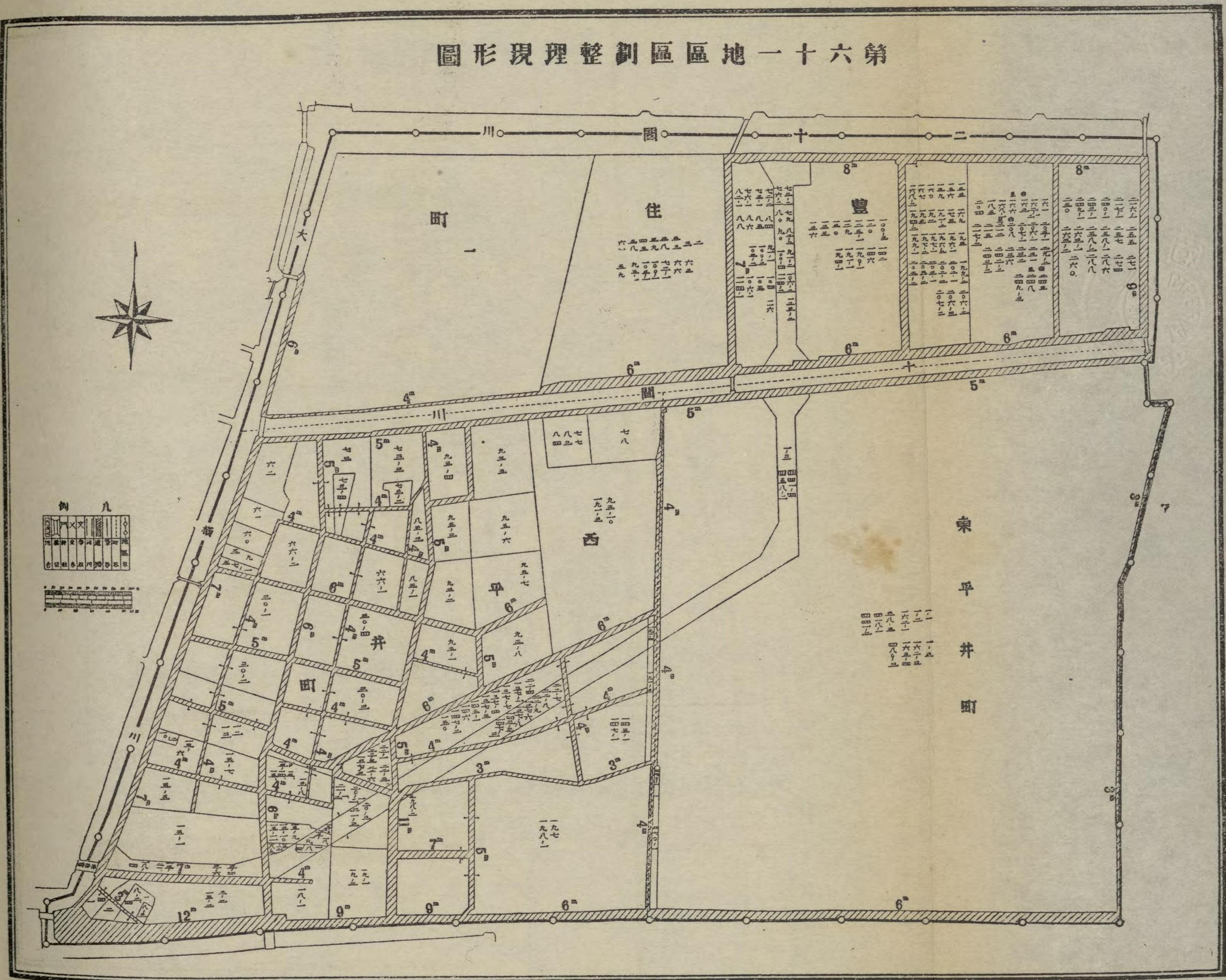


第十六地區換地

大正四十六年六月二十九日

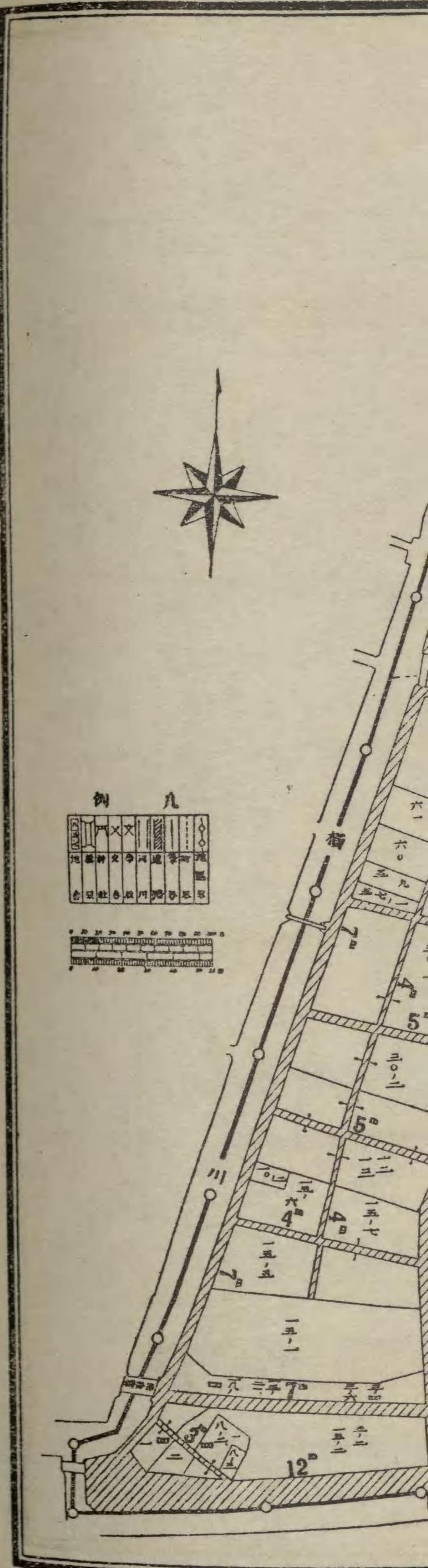
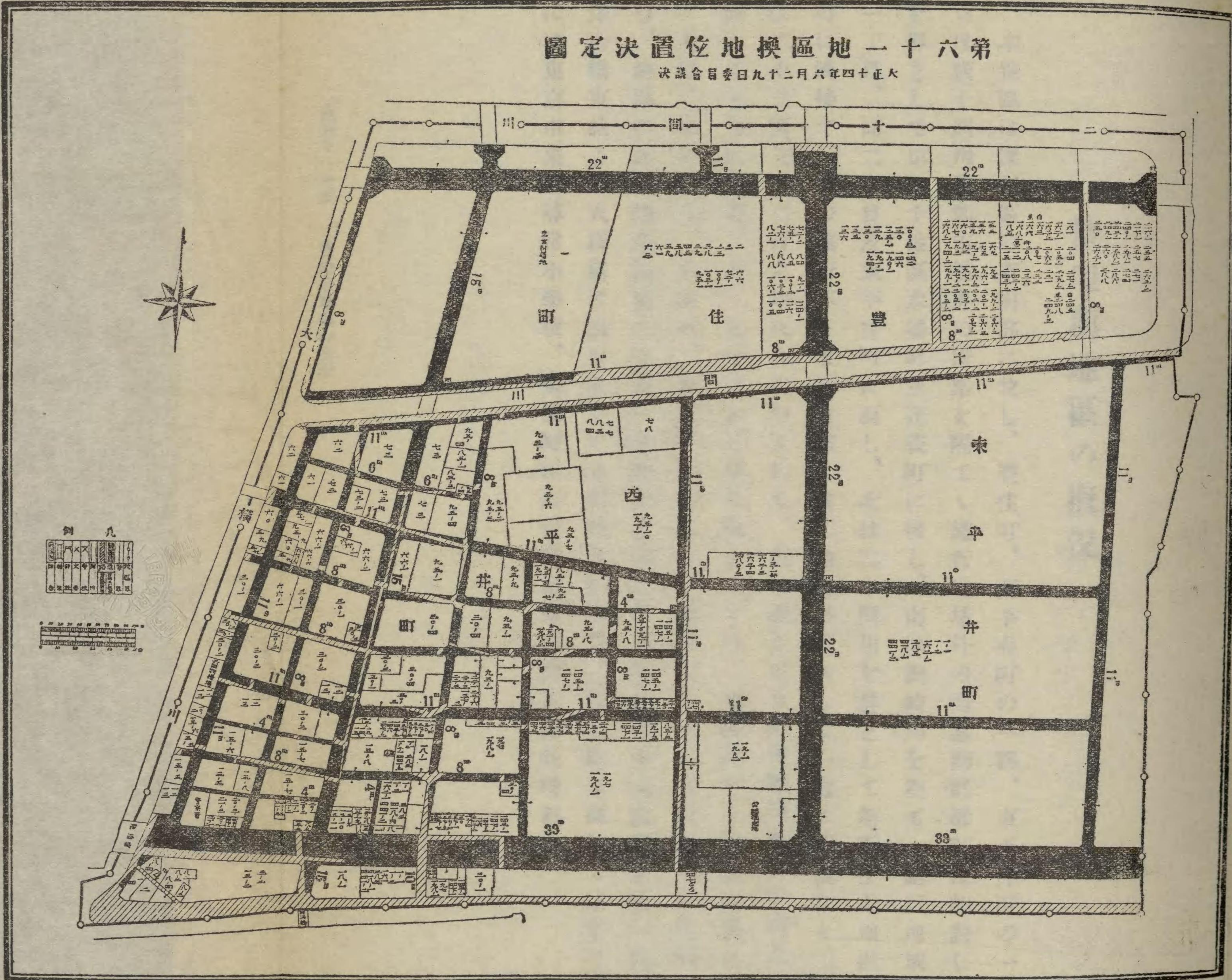


圖形現理整劃區區地一十六第



圖定決置位地換區地一十六第

決議會局委日九十二月六年四十四正大



整理前地區の概況

本地區は深川區の東南部に位し、豊住町、西平井町の一部、東平井町の一部を包括し、東は横十間川及郡市境界の街路を隔て、施行地域外の南葛飾郡砂町に相對し、西は大横川を界として第六十地區木場町及茂森町に接し、南は洲崎川を距て、施行地域外洲崎辯天町一丁目、同二丁目及東平井町に面し、北は二十間川を界として第五十七地區千田町及石島町に隣接す、其の地形不正なる方形を爲し地勢平坦にして一般に低濕なり、地區の總面積は二十三萬三千二百六坪八合八勺にして、之に所在する建物總棟數は千四百二十一棟なり、而して本地區は西、南、北の三方河川に圍まるゝ外、地區内を十間川東西に貫流するを以て水運の便に富み、木材商、挽材工場等多く、豊住町及東平井町内は貯木堀其の大半を占む、地區の西南端澤海橋より東へ洲崎橋北詰に至る街路は小商店軒を竝べ商業殷盛にして、澤海橋東詰より大横川に沿ひ北上する街路之に次ぎ、其の他は概して住宅なり、西平井町には東京市東陽尋常小學校、豊住町には帝室林野局豊住出張所あり。

甲 整地

第一章 土地區劃整理委員會

第一節 委員

第一 土地區劃整理委員及同補闕委員の選舉

第六十一地區土地區劃整理委員及同補闕委員の定數は各二十人にして、其の選舉を大正十三年九月九日深川區役所に於て執行したるに、何れも左記の通常選したり。

一 土地區劃整理委員

土地所有者の部

關 直之

武市森太郎

太田信治郎

羽中田民治

宮村 豐

長谷川鏡次

菊池武治

東京製鋼株式會社

田邊鉉太郎

鈴木永吉

借地権者の部

佐藤 彌 件

玉越增吉

堀六太郎

三木覺造

土屋辰次郎

鵜野留五郎

清水鑑三

小柳德平

鈴木壽作

東京木材倉庫株式會社

二 同上補闕委員

土地所有者の部

日向野辨吉

織田民六

城塚源藏

渡會應助

富本朝二

林 福 六

河合八右衛門

近藤福松

加藤平次郎

鈴木鑛一

借地権者の部

光 枝 禎 二

伊東廣十郎

番場金次郎

田中伊之助

市川利助

二 同上補闕委員

土地所有者の部

- 日向野辨吉
- 織田民六
- 城塚源藏
- 渡會應助
- 富本朝二
- 林福六
- 河合八右衛門
- 近藤福松
- 加藤平次郎
- 鈴木鑛一

- 佐藤彌伴
- 玉越増吉
- 堀六太郎
- 鈴木壽作
- 土屋辰次郎
- 東京木材倉庫株式會社

借地權者の部

- 光枝禎二
- 伊東廣十郎
- 番場金次郎
- 田中伊之助
- 市川利助
- 渡會關次郎
- 鶴岡鐵次郎
- 久保田仁平
- 花村金之助
- 野村金治

第二 議長及副議長の選舉

大正十三年九月二十五日深川區役所に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長關直之、議長及副議長選舉の方法を諮りたるに假議長の指名に決したるを以て、左の通指名したり。

- 議長 太田信治郎
- 副議長 玉越増吉

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。

- 一 土地所有者選出委員關直之大正十四年五月十四日死亡したるに因り、同月二十一日同補闕委員林福六補充せらる。
- 二 土地所有者選出委員東京製鋼株式會社大正十四年二月七日失格したるに因り、同年六月一日同補闕委員織田民六補充せらる。
- 三 土地所有者選出委員宮村豊大正十四年八月十日死亡したるに因り、同日同補闕委員鈴木鑛一補充せらる。

第二節 諮問及答申

一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は大正十四年六月二十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し六月十日限東京市役所へ出願したるものにして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

右大正十四年五月六日諮問 同日原案可決の答申

二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年六月六日諮問 委員會三回 協議會一回開催 同年六月二十九日修正決議の上答申

三 諮問第三號 整理前路線價指數並各筆坪當平均指數に關する件 (地區全部)

大正十四年八月十一日諮問 委員會二回 協議會四回開催 同年十二月十二日原案可決の上答申

議事要綱

本件中西平井町十八番ノ五外十一筆は、東京市に於て電車軌道敷設の豫定を以て、大正十一年十二月より同十四年一月迄の間に買收せる幅員二十米の街路敷なりしも、特別都市計畫委員會議定の街路關係上不用となりしを以て、同年三月より同十五年三月迄の間に逐次舊所有者に拂下を爲し地目を宅地に變更したるが故に、指數計算に當りて路線價を附せず、之に接する兩側の宅地は他の路線價より計算するの原案なりしが、委員會に於て該路線が事實上道路として使用せらるゝに拘らず路線價を附せざるに於ては、兩側の宅地が整理後幹線第三號に面し換地せらるゝものに對し、整理前後の指數に均衡を失し不公平を生ずべしとの意見ありたるを以て、當局は右道路に路線價を設け、之に依り兩側の宅地に達觀を加ふるを穩當と認め、修正提案したるものにして、審議の結果原案の通可決したり。

四 諮問第四號 整理後路線價指數に關する件 (地區全部)

大正十五年一月二十二日諮問 委員會一回 協議會一回開催 同日原案可決の上答申

五 諮問第五號の一 換地面積決定に關する件 (東平井町及豊住町の各一部)

大正十五年一月二十二日諮問 委員會三回 協議會五回開催 同年十月二十五日原案可決の上答申

六 諮問第六號の一 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (東平井町の一) (部及豊住町)

大正十五年一月二十二日諮問 委員會三回 協議會四回開催

昭和四年一月二十五日原案可決の上答申

- 四 諮問第四號 整理後路線價指數に關する件 (地區全部)
大正十五年一月二十二日諮問 委員會一回 協議會一回開催 同日原案可決の上答申
- 五 諮問第五號の一 換地面積決定に關する件 (東平井町及豊住町の各一部)
大正十五年一月二十二日諮問 委員會三回 協議會五回開催 同年十月二十五日原案可決の上答申
- 六 諮問第六號の一 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (東平井町の一) (部及豊住町)

大正十五年一月二十二日諮問 委員會三回 協議會四回開催
昭和四年一月二十五日原案可決の上答申

七 諮問第五號の二 換地面積決定に關する件 (西平井町の一部)

大正十五年三月四日諮問 委員會二回 協議會三回開催 同年十月二十五日原案可決の上答申

八 諮問第六號の二 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (西平井町の一部)

大正十五年三月四日諮問 委員會三回 協議會四回開催 昭和四年一月二十五日原案可決の上答申

九 諮問第五號の三 換地面積決定に關する件 (西平井町の一部) (豊住町の一部)

大正十五年五月二十二日諮問 委員會三回 協議會四回開催 同年十月二十五日原案可決の上答申

一〇 諮問第六號の三 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (西平井町の一部)

大正十五年五月二十二日諮問 委員會三回 協議會三回開催

昭和四年一月二十五日原案可決の上答申

一一 諮問第七號の一 換地位置變更に關する件 (東平井町及豊住町の各一部)

大正十五年五月二十二日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同年十月二十五日原案可決の上答申

一二 諮問第五號の四 換地面積決定に關する件 (西平井町の一部)

大正十五年六月二十二日諮問 委員會三回 協議會五回開催 同年十月二十五日原案可決の上答申

一三 諮問第六號の四 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (西平井町の一部)

大正十五年六月二十二日諮問 委員會四回 協議會四回開催

昭和四年一月二十五日原案可決の上答申

- 一四 諮問第七號の二 換地位置變更に関する件 (西平井町の一部)
大正十五年六月二十二日諮問 委員會三回 協議會三回開催 同年十月二十五日原案可決の上答申
- 一五 諮問第五號の五 換地面積決定に関する件 (西平井町及東平井町の各一部)
大正十五年九月十一日諮問 委員會二回 協議會五回開催 同年十月二十五日原案可決の上答申
- 一六 諮問第六號の五 整理後各筆坪當平均指數に関する件 (西平井町及東平井町の各一部)
大正十五年九月十一日諮問 委員會三回 協議會四回開催 昭和四年一月二十五日原案可決の上答申
- 一七 諮問第七號の三 換地位置變更に関する件 (西平井町及東平井町の各一部)
大正十五年九月十一日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同年十月二十五日原案可決の上答申
- 一八 諮問第五號の六 換地面積決定に関する件 (西平井町の一部)
大正十五年十月二十五日諮問 委員會一回 協議會五回開催 同日原案可決の上答申
- 一九 諮問第六號の六 整理後各筆坪當平均指數に関する件 (西平井町の一部)
大正十五年十月二十五日諮問 委員會三回 協議會四回開催 昭和四年一月二十五日原案可決の上答申
- 二〇 諮問第七號の四 換地位置變更に関する件 (西平井町の一部)
大正十五年十月二十五日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同日原案可決の上答申
- 二一 諮問第八號 換地面積一部變更に関する件 (豊住町の一部)
昭和二年十二月八日諮問 委員會一回 協議會二回開催 同日原案可決の上答申

二二 諮問第九號 整理前路線價指數並各筆坪當平均指數一部變更に関する件 (各町の一部)

昭和四年一月二十五日原案可決の上答申

二〇 諮問第七號の四 換地位置變更に関する件 (西平井町の一部)

大正十五年十月二十五日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同日原案可決の上答申

二一 諮問第八號 換地面積一部變更に関する件 (豊住町の一部)

昭和二年十二月八日諮問 委員會一回 協議會二回開催 同日原案可決の上答申

二二 諮問第九號 整理前路線價指數並各筆坪當平均指數一部變更に関する件 (各町の各一部)

昭和三年十二月十五日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同四年一月二十五日原案可決の上答申

二三 諮問第十號 換地位置並面積一部變更に関する件 (各町の各一部)

昭和三年十二月十五日諮問 委員會二回 協議會五回開催 同四年一月二十五日原案可決の上答申

二四 諮問第十一號 土地各筆清算に関する件

昭和三年十二月十五日諮問 委員會二回 協議會三回開催 同四年一月二十五日原案可決の上答申

二五 諮問第十二號 換地處分に關する件

昭和四年二月六日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同月十八日原案可決の上答申

二六 諮問第十三號 補償金配當に関する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合を左の通定めむとす。

東平井町一番ノ七、西平井町一番ノ六、同十五番ノ一、同二十二番ノ七、同二十二番ノ八、同二十

二番ノ九、同七十三番ノ三、同七十三番ノ四、同百三十七番ノ六、同百三十八番ノ八、同百四十五番

ノ三、同百四十七番ノ三の各所有權に對する配當割合は整理前指數相當額とす。

前項以外の土地に對する配當割合は補償總指數より前項の配當額を控除したるものを、特別都市計

畫法施行令第二十八條第一項に依る各權利の整理前指數に按分したる率に依るものとす。

右昭和四年二月六日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同月十八日原案可決の上答申

二七 諮問第十四號 換地處分に関する諮問に對し整理委員會の答申ありたる後土地又は

土地に關する權利の讓渡等ありたる場合の處分方の件

昭和四年二月六日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同月十八日原案可決の上答申

第二章 整理前土地の狀況

本地區の總面積は二十三萬三千二百六坪八合八勺にして、内宅地面積十九萬三千二百七十一坪一合五勺、公共用地面積三萬九千九百三十五坪七合三勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地八割二分九厘、公共用地一割七分一厘なり、宅地の内借地面積は七萬三千八百十二坪二合六勺にして、其の宅地面積に對する割合は三割八分二厘なり。

本地區に於ける街路及河川分布の狀況を述べれば左の如し。

一 主要街路

澤海橋より西平井町三番ノ二地先を回り洲崎橋北詰に出で、洲崎川及之に連續する運河に沿ひ東走して砂町に通ずる街路は幅員三間乃至十一間なり。

二 其の他の街路

豊住町嘉留橋より大横川に沿ひ西平井町辨天橋に至る街路は幅員三間乃至四間、辨天橋東詰より洲崎川に沿ひ洲崎橋北詰に至る街路は幅員五間乃至十二間、西平井町七十三番地先より同十五番ノ一地先に至る街路は幅員三間乃至三間半、十間川南沿ひの街路は幅員三間、同川北沿ひの街路は幅員一間半乃至六間半、横十間川沿ひの街路は幅員五間、二十間川沿ひの街路は幅員三間乃至五間半、東平井町と西平井町との界に在る街路は幅員二間半にして、其の他は幅員狹小、交通不便にして、東平井町内は殆ど街路を存せず。

三 河 川

洲崎川は地區の南端にありて幅員八間乃至十間、深度一寸、護岸を以て地區界と爲す、十間川は地區の中央部を東西に貫通し大横川と横十間川とを連絡する河川にして幅員八間乃至十一間、深度二尺三寸なり、二十間川は地區の北端に在りて十間川と同じく大横川と横十間川とを連絡し、幅員十七間

半乃至二十二間、深度四尺、河心を以て地區界と爲す、大横川は地區の西端に在りて其の南部は大島川に連絡し、幅員九間半乃至十五間、深度三尺七寸、河心を以て地區界と爲す、横十間川は地區東北

町と西平井町との界に在る街路は幅員二間半にして、其の他は幅員狭小、交通不便にして、東平井町内は殆ど街路を存せず。

三河川

洲崎川は地區の南端にありて幅員八間乃至十間、深度一寸、護岸を以て地區界と爲す、十間川は地區の中央部を東西に貫通し大横川と横十間川とを連絡する河川にして幅員八間乃至十一間、深度二尺三寸なり、二十間川は地區の北端に在りて十間川と同じく大横川と横十間川とを連絡し、幅員十七間

半乃至二十二間、深度四尺、河心を以て地區界と爲す、大横川は地區の西端に在りて其の南部は大島川に連絡し、幅員九間半乃至十五間、深度三尺七寸、河心を以て地區界と爲す、横十間川は地區東北の一部に在りて幅員九間半乃至十一間、深度二尺四寸、河心を以て地區界と爲す。

第三章 計畫の概要

第一節 街路運河及小公園計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路、運河及小公園左の如し。

第一 幹線街路

第三號線は澤海橋より東走して郡市境界に至る幅員三十三米の街路にして、補助線第四十二號交叉點以西は在來街路の北側に擴張し、其の以東は新設なり、第二十七號線は新設茂森橋より二十間川に並行して東走し、豊砂橋を経て第六十五地區に入る幅員二十二米の街路にして新設なり。

第二 補助線街路

第五號線は幹線第三號より分岐北走し、豊住橋に通ずる幅員二十二米の街路にして新設なり、第四十二號線は洲崎橋北詰より大横川に並行北走して新設石住橋に通ずる幅員十五米の街路にして、大部分を新設し、西平井町内一部を在來街路の兩側に擴張せり、第百十七號線は補助線第五號の西部に於て幹線第二十七號より分岐し、新設千田橋に通ずる幅員十一米の街路にして、本地區内に於ては延長僅に十四米全部新設なり、第百二十號線は新設大横橋より東進して補助線第四十二號に終る幅員十一米の街路にして殆ど新設なり。

第三 區劃整理街路

區劃整理街路は幅員四米、六米、八米、十米、十一米、十五米及二十二米にして、土地の状況に應じ

且幹線、補助線の連絡に考慮を拂ひ新設、擴張又は改修を爲せり。

第四 運河

地區の東北一部に在る横十間川は國施行の改修運河にして、幅員を擴張して四十米と爲し、河底を浚渫して深度一米八と爲す、其の幅員擴張の爲切取りたる面積千二百三十九坪六合三勺にして、内宅地五百九十五坪七合八勺、公共用地六百四十三坪八合五勺なり。

第五 小公園

東陽公園は東平井町に新設し、北は東陽小學校に隣し、南は幹線第三號に面し、東及西は民地に接す其の面積九百九坪一合八勺なり。以上述べたる幹線、補助線及區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	摘	要
幹線	計 二七三	三三米	一、一九・四七 八四・六 一、九四・三三	一一、〇七五・二四坪 五、八八・九 一六、九三・三		
補助線	計 二〇四・五	二二 二三 一五 三三	一五・四・六 一五・三 一四・五 七三〇・五一 六四・七 三、六六・四	九、二四・七 五、六・四 一、四・六 三、六六・四		舊道利用
			一八・七	二、三・〇		

一、三九・六	地	界
二、四七・九	一部幅員不同	
一、三九・六		
二、四七・九		
一、三九・六		
二、四七・九		

整理前後土地面積調

整理後	整理前	區分	
		總面積	宅地面積
三三、〇六・八 ^坪		六五、七〇・〇	一九三、七二・五 ^坪
六五、七〇・〇	七三、八二・六	〇・三九	〇・八元
〇・七八	〇・三八二	六、二四・六	三、九五・七 ^坪
〇・二九二	〇・一七	〇・二九二	〇・一七
二六、一九・八 ^坪		〇・一四五九〇三	
八、八七・七 ^坪		〇・一四五九〇三	

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

整理後	整理前	區分			
		民有地	國有地	公有地	計
一五〇、一四・五	一六九、〇三・三 ^坪	六、六三・五	一五、五九・九 ^坪	八、二九七・四	一九三、二七・五 ^坪
					一五、〇七・三

宅地面積内譯

整理後	整理前	區分	計
一五〇,一四・五九	一六九,〇三・二三	民有地	
		國有地	
	一五,五九・八九	公有地	
	六,六三・五三	公有地	
	八,六八・一三	公有地	
	八,二九・二四	公有地	
		計	一九三,二七・一五
			一六五,〇三・三三

整理前公共用地面積内譯

國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
一一,四三・七〇	三,七九・四六	四,四〇・二九	一九,六三・八五	一三,六九・四二	—	—	四,六四・五一	九,九三・三九	三三,〇〇・〇六

整理後公共用地面積内譯

幹線	補助線	區劃整理線	小計	在來	新設	在來	新設	在來	新設	堤塘	溝渠	合計
一六,九三・六三	九,二四・一七	二四,一五・八三	四六,一三・六三	九〇・一七	—	—	—	二六・六二	一七,〇四・〇九	—	—	六三,一四・七二

宅地が公共用地となりたる面積

幹線	補助線	區劃整理線	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
一四,五四・三五	五,五九・八一	二六,七六・九〇	四六,八〇・七四	六九・一七	九〇・一七	—	二〇・二六	—	一三八,四六・五五

公共用地が宅地となりたる面積

第六十一地區

甲 整地

街		路		河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
國有	公有	民有	小計	坪	坪	坪	坪	坪	坪
四、三九〇・六二	一三・九八	二、五八・五八	七、〇九・一八	一	一	一	一、六九・四五	一、四九・〇三	一〇、二四・七六

備考 各公共用地の整理前面積に宅地が公共用地となりたる面積を加へ、公共用地が宅地となりたる面積を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

本地區の平均減歩率は一割四分六厘なるもブロックに依り其の割合一樣ならず、就中東平井町方面は街路及小公園新設の爲減歩率一割六分に達し、西平井町方面亦一割五分八厘となり換地設計上支障を生じたるを以て、潰地充當用として宅地八千三百七十六坪九合一勺を買収せり、之が爲本地區の實際潰地面積は一萬九千八百二十一坪九合八勺に減少し其の減歩率一割七厘に低下したり、然るに猶ブロック間に於ける減歩區々に亘りたるを以て之が調節の爲ブロック間に宅地の移出入を行ひ其の設計を了せり。尙西平井町所在東陽小學校敷地を、地元民の希望に依り東平井町に於て換地することとせり、即ち東陽小學校敷地は従前西平井町十九番ノ一及同番ノ二に在り東、南は各街路に面し、西、北は何れも民地に接す、然るに其の敷地の大部分は幹線第三號に充當せらるゝが爲、換地の形狀學校敷地に適せざるに至れり、依て深川區に於ては之を機とし、同校敷地の變更を計畫し、東平井町一番に於て土地所有者に交渉し位置交換の協定を得たるに據り、深川區長より同所に學校敷地の換地を交付せられ度旨申出ありたるを以て、當局は此の希望を容れ換地の移出入を行ひたり。

第四章 土地の評價

第一節 整理前土地の評價

整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十四年八月十一日土地區劃整理委員會に附議し、同年十二月十二日原案の通可決せしも、其の後昭和三年十二月十五日一部變更案を提出し、昭

至れり、依て深川區に於ては之を機とし、同校敷地の變更を計畫し、東平井町一番に於て土地所有者に交渉し位置交換の協定を得たるに據り、深川區長より同所に學校敷地の換地を交付せられ度旨申出ありたるを以て、當局は此の希望を容れ換地の移出入を行ひたり。

第四章 土地の評価

第一節 整理前土地の評価

整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十四年八月十一日土地區劃整理委員會に附議し、同年十二月十二日原案の通可決せしも、其の後昭和三年十二月十五日一部變更案を提出し、昭和四年一月二十五日議了せり。

本地區整理前の土地評價には路線價に對する奥行價格百分率中甲、乙及丙の三率を適用したり、其の路線價指數は土地の狀況に依り三百五十個乃至千個と評定せり、即ち辨天橋東詰より洲崎橋北詰に至る路線及西平井町三番ノ二東北角より洲崎橋北詰に至る路線を最高千個、東平井町の東端地區界をなす路線を最低三百五十個としたり、而して路線價指數に基き算出し之れに地盤の高低による達觀を加へたる土地各筆平均坪當指數の最高は千二十七個、西平井町一番にして、最低は二百五十四個、東平井町一番ノ六なり。

宅地全筆の總指數は土地總指數六千二百九十七萬八千八百四個より、私道指數十四萬七千八百五十五個を控除したる六千二百八十三萬九千四百九十九個にして、之を宅地總面積十九萬三千二百七十一坪一合五勺にて除したる平均坪當指數は三百二十五個なり。

借地權利價割合は二割三分乃至三割と定めたり。

第二節 整理後土地の評価

整理後路線價指數に關する件は大正十五年一月二十二日土地區劃整理委員會に附議し、同日原案の通可決し、整理後各筆平均坪當指數に關する件は大正十五年一月二十二日より同年十月二十五日に至る迄六回に分ちて同委員會に附議し、昭和四年一月二十五日議了せり。

本地區整理後の土地評價には整理前と同じく甲、乙及丙の三率を適用し、又横十間川には整理後に於ける河川の利用を考慮して河川價を附し之に丙率を適用したり、其の路線價指數は土地整理の狀況に依り、三百七十五個乃至千個と評定せり、即ち補助線第四十二號中幹線第三號との交叉點より洲崎橋北

詰に至る間を最高千百個、東平井町十七番と十八番との界に在る十一米區劃整理路線を最低三百七十五個とせり、而して路線價指數に基き算出し之れに地盤の高低による達觀を加へたる各筆平均坪當指數の最高は千八十七個、西平井町五番從前最高の箇所にして、最低二百九十七個、東平井町十一番從前最低の箇所なり。

換地全筆の總指數は六千二百五十四萬四千七百九十一個にして、之を換地總面積十六萬五千七十二坪二合六勺にて除したる平均坪當指數は三百七十九個なり。
 借地權利價割合は整理前と同じく二割三分乃至三割と定めたり。
 以上記述せる整理前後に於ける最高、最低の路線價指數並各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	1,000個	230.00円	1,100個	297.00円
最高	350	240.00	375	301.25
最低	1,070	27.00元	1,070	293.00元
各筆坪當	254	6.75	270	80.19
最高	35	87.5	37	101.31
最低	35	87.5	37	101.31
宅地總平均坪當				

備考 指數單價は二十七錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

宅地總平均坪當	各筆坪當		宅地總平均坪當	各筆坪當	
	最低	最高		最低	最高
三五	一〇七	二七・元	三七九	一〇八七	二九三・四九
三五	一〇七	二七・元	三七九	一〇八七	二九三・四九
三五	一〇七	二七・元	三七九	一〇八七	二九三・四九

備考 指數單價は二十七錢なり。
又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權	五四、二〇九、八〇〇 (内私道) 一四七、八五五 外 二、八八三、三三八	一四、六六六、六五・四〇 元、九〇・八五 七八、四九八・五	五、四七五、四五 個	一五、一四八、七二・七七 元
借地權	五、八八五、六六	一、五八九、二七・二二	六、〇六九、三四〇	一、六三六、七二・八〇
合計	六〇、〇九五、四六六 (内私道) 一四七、八五五 外 二、八八三、三三八	一六、三三五、七六・五三 元、九〇・八五 七八、四九八・五	六、三五四、七九一	一六、八八七、〇四三・七七

備考 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。
二 整理前の總指數潰地充當用買收地の指數を包含するものは六二、九七八、八〇四個なり。
三 整理前宅地總指數私道の指數を包含せざるものは六二、八三〇、九四九個なり。

第五章 換地處分

第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和三年十二月十五日土地區劃整理委員會に諮問し、同四年一月二十五日原案の通可決し、換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は昭和四年二月六日委員會に諮問し、同年二月十八日原案の通可決したるを以て、同月十九日內務大臣に本地區の土地區劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同月二十五日認可、同日內務省告示第四十七